

# 平成29年度事業報告書

(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

## はじめに

当財団は、横浜市との連携のもと、横浜に関係した歴史の理解に資する国内外の資料や文化財の調査、研究、収集、保管および公開を行うとともに、歴史や文化財に関する普及啓発を行い、先人たちの歩みや積み上げてきた文化を市民共有のものとし、さらに次世代へ継承していくことで、ふるさと意識の醸成及び市民文化の発展に寄与することを目的としています。

29年度は、第3期指定管理第2年目の年であり、財団事業の一体的な推進、財団業務の一体化をめざしその指定管理10年間の基盤づくりを行ってきました。財団は、これまでの各館の歴史と役割を十分に活かしつつ、全施設が連携することにより、それぞれの施設の強みが活かされ、柔軟な発想と多様性を生み出しながら、魅力ある事業を展開してまいりました。また、市や区の施策や事業に対して、これまで以上に連携や支援を積極的に進めるとともに、施設の特徴を発揮しながらも、その枠をこえた取組を実施することにより、着実に成果を上げることができました。

一方、財務状況は、委託料の減額や人件費の支出増等により、正味財産が1億円を割り込む事態となり、財団をあげて財務状況の改善に取り組んでまいりました。また、予算要求制度を導入し、自己申告制度を定着させるなど、組織運営の強化・効率化を図ってまいりました。

(注) 新規、追加、さらには重点的に取り組んだ事業については、ゴシック文字で表記しています。

### 【評価について】

各事業について、平成29年度事業計画と比較した事業進捗・達成度合により、次の基準で自己評価を記載しています。

評価基準については、平成21年6月の理事会・評議員会で決定されたものです。

S	目標を大きく上回る成果が上がった。新たな取り組みなどを行い予定より大幅に進めた。 定量評価: 目標値 120%以上達成
A	目標を上回る成果が上がった。新たな取り組みなどを行い予定より進めた。 定量評価: 目標値 105%以上 120%未満達成
B	目標通りの成果が上がった。予定通り進めた。 定量評価: 目標値 95%以上 105%未満達成
C	目標を下回る成果にとどまった。予定通り進めることができなかった。 定量評価: 目標値 80%以上 95%未満達成
D	目標を大きく下回る成果にとどまった。予定より大幅に遅れた。 定量評価: 目標値 80%未満

# I 財団本部事業

## 1 財団本部事業（定款第4条第1項第3号）

事業の調整、諸会議の運営等を実施し、円滑な組織運営を図りました。また、公益財団法人として、理事会・評議員会の開催、神奈川県への報告等を的確に執行いたしました。

	事業区分	事業内容
1	円滑な組織運営	(1) 諸会議の運営 ①役員会 月2回 ②経営会議 月1回 ③課長会 月2回程度 <主な検討項目> ①理事会・評議員会について～議題等の検討 ②財務改善への取組について ③予算要求制度について ④事業推進のあり方について ⑤人材育成の進め方について ⑥企画展計画、進捗報告 ⑦文化財保護法改正動向について ⑧自己申告制度について ⑨情報セキュリティ管理規則、研修について ⑩情報システムの更新について ⑪企業連携事業について ⑫神奈川県公益認定等審議会立ち入り検査について ⑬横浜市外郭団体等経営向上委員会答申について ⑭事業報告書・決算書作成 ⑮平成30年度事業計画・予算書作成について ⑯29年度の課題と次年度に向けて (2) 神奈川県公益認定等審議会立ち入り検査対応 (3) 自己申告書制度の実施 (4) 人材育成を図る研修の実施 外部研修への参加調整および管理職研修の実施
2	財団人事・労務・財務の管理	(1) 財団の財務状況改善に向けた取組 (2) 職員の採用、異動等雇用管理 (3) 就業規則他諸規則の整備及び運用 (4) 給与、社会保険、税金関係等の管理 (5) 定期健康診断の実施等による安全・衛生管理、福利厚生施策の実施 (6) 職員メンタルヘルスの支援

		(7) 一体的な取組、連携等を考慮した予算編成・管理・決算の実施 (8) 寄附金・協賛金獲得の企画調整
3	事業と予算編成	(1) 予算要求制度の導入 (2) 一体的な取組、連携等を考慮した予算編成・管理・決算の実施
4	災害対応	(1) 防災訓練の実施
5	理事会・評議員会の開催	(1) 理事会の開催 年8回 議案検討・確定、招集、開催、議事録作成 (2) 評議員会の開催 年2回 議案検討・確定、招集、開催、議事録作成
6	所管局への報告・調整	(1) 指定管理・委託事業 報告提出(月次、四半期、年度) (2) 事業報告・決算書に基づく市会報告
7	共同広報の実施	(1) 財団ホームページの管理 情報公開項目の更新等 (2) メルマガ「よこはま歴史かわら版」配信 月1回および臨時号
8	情報システムの管理	(1) 情報システム機器(ソフトウェア等を含む)の保守・管理 (2) 情報セキュリティに関する啓発・研修 (3) 財団内システムの更新[30年度より]に向けた準備
9	事業推進	(1) 開港記念日の取組み 市立小学校の3年生から6年生全員に学校を通じ統一チラシを配付し、中学校・高校特別支援学校には学級掲示用ポスターを配布した。歴博、開港、都ユではワークショップを開催した。 (2) システム更新に向けた取組み 平成31年度に行われる財団の情報システムの更新に向け、全職員から現状や希望を聞き取り、業務の効率化が図れるよう新しいシステム計画を立て、入札に向けた準備を行った。 (3) 春のサンクスデーの取組み 本年度3月21日に実施した「春のサンクスデー」のポスターを製作し、市内各学校に配布した。 (3) 東京オリンピックや新市庁舎竣工記念の企画展、明治150周年などの一体的事業について、検討を進めた。
10	エデュケーター事業	(1) 学校との連携 ① 学校団体見学や訪問授業についての広報活動 ② 授業づくりや歴史資料活用に関する相談支援 ③ 学校団体見学における下見の受入 ④ 各館における学校見学時の解説・ガイダンス実施 ⑤ 高校生・大学生の見学・研修への対応 ⑥ 学校への訪問授業及び講演会等の実施 <b>29年度実績：実施校21校 対象児童2,455人</b> (2) 教育委員会・各種研究会との連携 ① 財団主催教員研修「吉田新田学習会」の企画・運営

	<ul style="list-style-type: none"> <li>② 教育委員会主催「博物館活用研修会」の内容調整、運営</li> <li>③ 横浜市立学校教員の初任者研修・アイカレッジへの対応</li> <li>④ 各校種社会科研究会への協力（「歴史ウォーク」の支援、授業相談、研究発表会への協力など）</li> <li>⑤ 横浜市立学校教員の横浜に関する歴史理解を促すため「横浜歴史ガイド」の作成（継続）</li> </ul> <p>(3) 文化庁助成事業「博物館デビュー支援事業」計画・運営・研修会実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 校内資料室視察および活用検討会を随時開催</li> <li>② 実行委員会運営支援(年間4回)</li> <li>③ 研修会「学校に歴史資料室をつくっちゃおうフォーラム2017」運営支援</li> </ul> <p>(4) その他関係団体との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 学校・地域コーディネーターフォーラムへの参加 (博物館の資料活用による教育支援・訪問授業の企画)</li> <li>② 歴史博物館常設展示・遺跡公園ガイドボランティア養成研修への支援</li> </ul>
--	---

## 事業別評価

事業名称	実施概要	評価
本部事業	<p>協約目標の達成に向けて財団が一体となって各事業を展開してきた。</p> <p>財団の財務状況については、事業支出の抑制や人件費の抑制を検討し、一部は本年度より実施して改善を図った。</p> <p>業務の調整、諸会議の運営、人事労務事務等は適切に実施することができた。</p>	A

## II 指定管理事業

### 1 財団全体としての取組み及び事業

本年度は第3期指定管理2年目として、昨年に引き続き「5館一括10年」の基礎づくりを丁寧に行う時期として位置づけ、事業を進めてきました。財団各館のこれまでの歴史と役割を十分に生かしつつ、それぞれの施設の強みを生かし、柔軟な発想と多様性を生み出しながら、一体的に、魅力的な事業を実施してきました。

その中で特に意識した取組みが「柔軟な発想と多様性を生み出す連携」と「活力ある、魅力的な組織への取組」でした。

各館の専門職が同じテーマで横断的な調査研究を行うことにより、より多面的で深い研究とするとともに、市民の皆様にとっても魅力的なものとなるような企画・展示・講座・出版を行ってきました。また、まちの賑わい創りと連動した取組み、多様な組織と連携した多彩な取組み、各館情報冊子などを通して歴史の魅力と博物館の魅力を伝えてきました。

#### <財団内における共同研究>

研究テーマ	内容	中心となる施設
戦中・戦後期の都市横浜に関する連携研究	戦争の時代から戦災復興を経て、高度経済成長への至る昭和期横浜の歴史を多角的に明らかにする調査研究を行った。今年度は9回の定例会を開催し、参加者（うち2回は外部講師）が報告を行った。また基礎作業として『広報よこはま』記事検索用目録の入力作業を行った。	開港資料館 都市発展記念館 市史資料室
地図データベース作成に関する調査研究	各館が所蔵する地図資料を横断的に検索ができるよう整理・目録化を図る事業である。三施設の既存の地図データを統合して母体となるデータベースを作成し、各施設で所蔵する地図資料を順次調査してデータベースを完成させた。	開港資料館 都市発展記念館 市史資料室
中山家資料共同調査	都筑区川和町の旧家である中山恒三郎家資料について、当主から追加の現地調査の依頼があり実施するとともに、今後の資料活用について相談した。	開港資料館 歴史博物館 都市発展記念館
昭和期の横浜の都市生活に関する調査研究	磯子区の時計店に勤務していた下平政熙氏の直筆日記（横浜都市発展記念館蔵）の昭和12～14年分および関連史料から、当該期の横浜の都市生活について考察し、『横浜都市発展記念館紀要』No. 14で「昭和戦中期横	歴史博物館 都市発展記念館

	浜の都市生活誌（上）—横浜市磯子区の下平政熙氏の日記から（2）」として報告した。	
ユーラシア概念をめぐる研究	連携し、共同研究会を実施。外部研究者の協力を得て、日本や東アジアを含むユーラシア諸地域の文化交流についての最新調査研究成果を共有した。各研究報告については、ユーラシア文化館紀要にて要旨を公開した。	歴史博物館 ユーラシア文化館
銭湯を中心とする横浜の公衆衛生に関する研究	展覧会の開催に向けて両館で調査を進め、協議を経て両館連携で「銭湯と横浜」展を開催した。	歴史博物館 開港資料館

### <多様な連携>

連携	連携先	中心となる施設	内容
区との連携	中区	開港資料館 都市発展記念館 総務課	区制 90 周年記念 開港記念会館 100 周年記念実行委員会、記念誌作成協力、シンポなどへ講師派遣
	中区	開港資料館 都市発展記念館	中区広報に連載執筆
	都筑区	全施設 総務課	区制 25 周年 記念誌作成協力
	神奈川区	全施設 総務課	区制周年記念への協力
	栄区	埋文センター 総務課	図書館事業への協力
	青葉区	歴史博物館 総務課	・区生涯学習講座、アートカンファレンス ・小学校歴史資料室の再整備
	磯子区	三殿台考古館	区内の市民利用施設が企画するゴールデンウィーク企画に参加。「いそっぴゴールデンウィーク 2017 スタンプラリー」
	金沢区	歴史博物館 埋蔵文化財センター	歴史協定による連携事業 博物館デビュー事業による活動の拡大
市との連携	全国都市緑化フェア	開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館 総務課	環境創造局との連携 (27 年度より継続)
教育委員会との連携	授業づくり講座	全施設	・指導企画課、4 方面教育事務所との連携 ・社会科、日本史、世界史、美術等の学習を豊かにするための職員向け研修への協力
	アイカレッジ	全施設	・教職員育成課との連携

			・横浜の歴史を学ぶ
	教員研修	全施設	・教職員育成課との連携 ・横浜の歴史を学ぶ
	子どもアドベンチャーへの協力	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館 三殿台考古館 埋蔵文化財センター	教育委員会主催事業 8/18実施
	高校教育	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	グローバル人材の育成 海外大学進学支援プログラム
<b>社会科研究会（市・区）</b>	市研究会 区研究会	全施設	教員研修
<b>学校連携</b>	訪問授業	全施設	学芸員による訪問講座
	歴史マップ作成	歴史博物館	エドゥケーターを中心とした資料作りおよび普及啓発
	学校の歴史資料室の活用	歴史博物館	博物館デビュー支援事業の継続 〔文化庁補助事業〕
	職業体験受け入れ	全施設	中学校2年生キャリア教育への協力
	中学校社会科作品展	歴史博物館	継続社会科研究の展示発表（常設展示室）
	県立高校との連携	歴史博物館	インターンシップの受け入れ
	県内の高校の社会科クラブとの連携	開港資料館	社会科クラブ（高文連）の生徒への研修・指導
	小学校の地域交流クラブ・サマースクール等への支援	三殿台考古館	近隣小学校への支援
<b>大学連携</b>	神奈川大学	歴史博物館	市内の民俗資料の連携調査実施
	南山大学	ユーラシア文化館	企画展「タイ山の民を訪ねて1969～1974」を連携実施
	東海大学	歴史博物館 開港資料館	「明治維新150年」をテーマにシンポジウム
	東海大学など	ユーラシア文化館	大学の東洋史専攻の学生の学外授業に対応：資料熟覧・展示解説など
<b>他館との連携</b>	神奈川県立歴史博物館	歴史博物館	企画展「丹波コレクションの世界Ⅱ 歴史×妖×芳年 “最後の浮世絵師”が描いた江

			戸文化」の連携実施
	古代オリエント博物館	ユーラシア文化館	企画展「魅惑のランプ」を共催
市民団体との連携	横浜郷土史団体連絡協議会	歴史博物館 開港資料館	協議会の事務局をつとめ研修や協働事業を実施
	地域歴史散策	埋蔵文化財センター	栄地域史研究会と連携して、地域の遺跡や由緒ある寺社を見学・散策。
	展覧会ワークショップ	都市発展記念館・ユーラシア文化館	活動支援ボランティアと連携して、企画展開催時の土・日にワークショップを開催。
	NPO法人 結ぶ	歴史博物館	エントランスと講堂を会場に、あつたか復興支援「わすれない3.11応援しよう都筑から」を共催
地域参画 地域連携	NPO 法人都筑民家園管理運営委員会	歴史博物館	文化イベント（「都筑・遺跡公園・民家園アート月間」）の連携実施
	タウンセンター活性化検討会	歴史博物館	センター南・北の活性化企画や催しの実施
	日本大通り活性化委員会	都市発展記念館・ユーラシア文化館	日本大通り周辺の事業所が連携し、活性化企画や催しの実施
	山下公園通り会	開港資料館・都市発展記念館・ユーラシア文化館	山下公園通り周辺の事業所が連携し、Y158 セントラルタウン・フェスティバルなどを実施。5月27日・28日のY158の2日間、3館は入館無料。
	国際フェスタ参加	ユーラシア文化館	「よこはま国際フェスタ」に参加し、イベントブースを設置。
民間事業者連携	富士ゼロックス（株）都筑阪急 菜香（株）	歴史博物館 歴史博物館 ユーラシア文化館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展における最先端の展示手法の実験</li> <li>・モザイクモール港北の観覧車に招待</li> <li>・菜香新館（横浜中華街）での「清芳午餐（せいほうランチ）」企画の実施</li> </ul>

## 2 歴史博物館事業

本年度は第4期協約の最終年であり、協約に示した目標を達成させる年でした。

調査研究事業は全てのテーマを予定通り実施し、各テーマは今年度以降の企画展に活かされるなど、広く市民に還元していきます。常設展示室の活性化は引き続き大きな課題となっています。本年度は、常設展示室のガイドボランティア活動のより一層の充実と、多目的空間であるスタディサロンで全館無料デーなどの機会に様々なイベントを実施しました。

企画普及事業は多様な事業を展開しました。企画展は6回開催しましたが、専門性と一般性のメリハリを付けたラインナップで臨み、近年にない来館者数を得ました。このうち「歴史×妖×芳年」展は県立歴史博物館と、「横浜に稲作がやってきた」展は埋蔵文化財センター・三殿台考古館と、「銭湯と横浜」展は開港資料館と連携し、連携先の長年の研究成果を踏まえ、実りある展覧会を実施しました。また、各種講座や体験学習はメニューを絞り、質の向上をはかりました。

今年度も外部諸団体との連携に力を入れました。とりわけ北部地域との関係を深める普及事業を展開しました。オール横浜の施設であることを自覚しつつ、地元にかかれた博物館という姿勢は今後とも打ち出していきます。

市民協働では、前出のガイドボランティアに加え、活動支援ボランティアの活動の幅を広げました。また博物館に集う関連団体とも多彩な連携事業を実施しました。学校連携に関しては、学校団体来館が多い時期に、アクティブラーニングを意識した「君も今日から考古学者！」展を開催し、生涯学習機関としての先進的な試みを実施しました。

施設の管理運営面では、懸案であった空調機器の交換を一部実施しました。また、文化芸術振興費補助金「地域と共働した美術館・歴史博物館支援事業」に応募し、「学校・地域・博物館をつなぐ博物館デビュー支援発展事業」として本年度も引き続き採択され、当館を中核に小学校が所蔵する資料の調査・整理などを実施しました。また5年の区切りを踏まえ、次の支援事業つなげる「観光」を念頭においた様々な試みを都筑民家園と実施しました。

### 1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

展示・教育・普及・閲覧公開等の博物館活動に活用する資料を、購入・寄贈・マイクロ撮影等で収集し、分類・整理するとともに良好な状態で保管するため、資料の燻蒸を行いました。

#### (1) 資料の収集・管理

項目	点数	事業内容
資料の寄贈・寄託	寄贈 24件 992点 寄託 0件 0点	主な収集資料：矢部の湯関係資料、小机城遺物、堀内講中関係資料、西洋古式銃など
実物資料の購入	28件 192点	主な収集資料：街頭紙芝居、東叡山文殊楼焼討之図など
レプリカ製作	0件 0点	施設改修の関係で本年度は取りやめた。
マイクロ撮影	2000コマ 製本10冊	主な資料：金沢藩士萩原家文書
資料の修繕・保存	0件 0点	施設改修の関係で本年度は取りやめた。
資料の整理活用（収集）	4, 477件	実物購入資料・図書文献資料のデータ入力を行った。

資料のデータ入力)		
資料の整理活用（収集資料の貸出）	7件 137点	他の博物館・資料館での企画展・特別展、および調査研究のために本館所蔵資料の貸出を行った。
図書資料の公開	5,042件	図書閲覧室で、文献資料の公開及びレファレンスを行った。
写真資料の撮影・整理	撮影数738カット	常設展示や企画展・特別展に関する資料及び収蔵資料の撮影と整理を行った。
画像資料の貸出	貸出件数63件194点	他の博物館や公共機関、出版社などへの写真資料の貸出を行った。

(2) 資料収集内訳 (H29.4~H30.3)

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
絵 画 (点)	19 (1)	(—)	(—)	(—)	19 (1)	1,976 (1,957)
工芸品 (点)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	132 (132)
彫 刻 (点)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	20 (20)
書 跡 (点)	(—)	(—)	(2)	(—)	(2)	53 (53)
典 籍 (点)	2 (4)	(—)	(—)	(—)	2 (4)	4,661 (4,659)
古文書 (点)	(—)	(1)	131 (476)	(—)	131 (477)	31,908 (31,777)
古記録 (点)	(—)	(—)	(—)	(2)	(2)	55 (55)
絵 図 (点)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	169 (169)
歴史資料 (点)	(—)	(—)	(8)	(—)	(8)	16,877 (16,877)
考古資料 (点)	(—)	(—)	525 (2,923)	(92)	525 (3,015)	20,416 (19,891)
民俗資料 (点)	171 (401)	(1)	336 (440)	(—)	507 (842)	13,125 (12,618)
図書文献資料 (点)	81 (144)	(—)	2,305 (1,731)	(—)	2,386 (1,875)	70,958 (68,572)
合 計	273 (550)	0 (2)	3,297 (5,578)	0 (94)	3,570 (6,224)	160,350 (156,780)

※ ( ) 内は、前年度点数

(3) 図書閲覧室利用状況

図書閲覧室のパッケージエアコン改修のため、1/23~3/31の期間は閉室した。

項 目	平成29年	平成28年	平成27年
閲覧室利用者数 (人)	7,449	9,288	6,177
複写申込件数 (件)	470	510	469
複写枚数 (枚)	4,560	4,530	4,010
レファレンス件数 (件)	735	690	556

#### (4) 資料の保管

項目	目的・意図 及び 内容・成果
文化財害虫への対応	収蔵庫から出した資料は、資料の種別や利用場所等に応じて、燻蒸の必要性を判断した。
保存燻蒸処理	燻蒸庫を利用した二酸化炭素燻蒸を4月、7月、10月、12月、3月の計5回行った。
環境検査	館の環境を把握するため、定期的に昆虫類モニタリング、菌類測定、塵埃測定、光学的測定を行った。

#### (5) 資料保管施設の管理

保管施設	保管資料
歴史博物館収蔵庫 (1,901 m <sup>2</sup> )	原始・古代から近現代までの考古資料・歴史資料・民俗資料等。このほか、神奈川県立歴史博物館の改修工事に伴い、平成30年(2018)3月末まで同館所蔵丹波コレクション及び間口洞穴出土資料(県指定重要文化財)の保管を行なった。

#### (6) 川和町中山家の調査

都筑区川和町の旧家中山恒三郎家所蔵資料を調査し、モノ資料は歴博、紙資料は開港と都発が分担して整理を進めている。今年度は追加調査と将来に向けた資料活用の検討を行った。

## 2 調査研究事業(定款第4条第1項第1号①)

博物館活動の原資となる調査研究は、当館で行なう(1)調査研究、他施設と連携して行なう(2)連携調査研究、次年度以降の企画展開催に向けた調査研究を設定し、実施しました。

#### (1) 基礎資料研究

項目	目的・意図
基礎資料研究	
横浜市域貝塚の研究(2/3年次)	横浜市金沢区称名寺貝塚に関わる研究を継続した。今年度は、立正大学に所蔵されているB貝塚出土資料の図化・報告を行なった。また、称名寺貝塚を中心とした後期におけるイルカ漁の展開に関わる論考を執筆している(2018年11月刊行予定)。
横浜市内の後期旧石器遺物の研究(2/3年)	昨年度の調査研究において、柏尾川とその支流に分布する当該期遺跡の調査を行った。今年度は大岡川・帷子川流域の旧石器時代・縄文時代草創期の遺跡・遺物の様相を調査し、特に大岡川流域での資料分布の希薄さを確認した。調査の成果についてはミニ展示などで活用したい。
上矢部富士山古墳出土埴輪の研究(2/3年次)	当館収蔵の横浜市指定文化財、上矢部富士山古墳(戸塚区)の未整理破片について、調査時の図面や写真と対照し、個体の同定および接合・復元作業をおこなった。今年度より(公財)朝日新聞文化財団の文化財保護助成を受けて事業を進めている。104箱の基礎整理が終了し、同定できた個体数は85個体、う

	ち44個体の接合・注記をおこなった。常設展示室において、ミニ展示「よみがえれ！ヨコハマのハニワたち」を開催した（会期：2017年12月23日～2018年3月31日）。
市域所在の中世資料の調査（2／3年次）	本年度は、昨年度に調査を実施した古文書の一部について、改めて考察を行った。なかでも昨年度寄贈をうけた大嶋家文書に含まれる「北条氏光朱印状」について再検討し、戦国時代の大嶋因幡守の父や兄は矢野を称して室町～戦国時代にかけて神奈川郷の支配に関与していたこと、また近世初期には因幡守の息子・大嶋久成が尾張藩に出仕し、愛知県知多郡長尾村に所領を得て大日寺を建立していたことを明らかにした。この成果は紀要22号に執筆をした。また先年に学習院大学資料館より預かっていた小机城出土遺物について整理作業を実施し、正式に寄贈を受けた。この遺物等資料については、来年度以降のミニ展示等で活用する予定である。
横浜市指定・登録民俗文化財に関わる調査研究（2／3年次）	本年度は港北区新羽三谷戸の廻り地蔵を対象とした。この廻り地蔵については、他の廻り地蔵と比べて各家々に地蔵が滞在する期間が非常に長く、保存会である講中をひとまわりするのに数年を要することが大きな特徴である。そのため、講中の方であっても、指定調書以外に廻り地蔵に関する詳細を把握して折らず、報告書類もなく行事の内容は明らかではなかった。今年度は地蔵像や厨子の修復をおこなったことから、講中のメンバーを中心に座談会を行い、行事の伝承および、今後の方向性について『横浜市指定無形民俗文化財「廻り地蔵」をささえる町のくらし報告書』を刊行し、明らかにした。
テーマ研究	
人面付き土器の研究（2／2年次）	鶴見区上台遺跡出土の人面付土器の再実測作業を行なった。精度やコスト等を総合的に考慮して、SfM/MVS法による3D計測を行なうこととした。技術習得のため、公益財団法人日本文化財保護協会との共催によるワークショップを開催した。成果は、次年度の紀要において発表予定である。
横浜市域の牧の研究（2／3年次）	今年度は、古墳時代の馬匹生産・奈良時代の駅制および平安時代の御牧に関する先行研究を読み進め、平成30年度開催予定の「古代東国の牧と馬（仮題）」の構成を検討した。その成果の一部として、常設展示室ミニ展示「御馬（おうま）、みやこへ行くー古代の牧と馬をめぐるー」8/19（土）～10/1（日）を開催した。
幕末維新期の政局と横浜の村々の研究（2／3年次）	本年度は、昨年度に引き続き地方文書（市場村添田家、勝田村関家、石川村酒井家、神大寺村北村家など）の調査・読解を進めた。また、戊辰戦争の人馬徴発に携わった武州金沢藩米倉家や伊豆葦山代官江川家の資料を調査し、両家の人馬徴発体制や宿駅警衛の実態に関する古文書等を発見した。さらに昨年度からの成果の一部を、奈倉哲三他編『戊辰戦争の新視点 下』（吉川弘文館、2018年3月）にて発表した（「東海道軍と沿道の人々ー横浜とその周辺地域を中心にー」）。
学校内歴史資料室に関する研究（2／3年次）	本調査研究は、博物館デビュー支援事業実行委員会（会長 鈴木靖民）が文化庁の補助を得て進めている博物館デビュー支援事業と相互に連携してす

	めるものである。今年度は平成 25～28 年度までの事業の成果を受けて、これまでの取組をまとめ、民具研究 156 号「学校内歴史資料室における民具の現状とこれから」（2017 年 11 月 ）、地方史研究 391 号「学校文化財がつなぐ学校・地域・博物館」（2018 年 2 月 ）に論考を掲載し、学術関係者への周知をはかった。
市民協働調査研究	
土器の実験考古学的研究（2／3 年次）	「横浜縄文土器づくりの会」と協力して大塚遺跡出土の宮ノ台式甕と台付甕を 4 点作成し、開放型野焼きと覆い型野焼きの 2 種類の焼成実験を行った。その成果は企画展示「横浜に稲作がやって来た!？」で展示をするとともに、当館の紀要 2 2 号にて報告することができた。
武州金沢藩目付日記の研究（2／3 年次）	昨年に引き続き、当館で所蔵する武州金沢藩の目付の公用日記（慶応 4 年～明治 3 年）を横浜古文書を読む会とともに解読を行った。本年度は慶応 4 年 7 月～1 2 月の部分について、釈文・註を紀要 2 2 号に掲載した。今回の読解部分からは、武州金沢藩が天皇東幸に向けて西洋式の銃隊訓練を強化していく様子などが具体的に明らかとなった。
市民協働民俗調査（2／3 年次）	本年度はこれまでの「民俗に親しむ会」について、H28 年度に実施した「民俗の見方、調べ方」講座受講生から希望者を加えて再組織し、テーマを鶴見川支流にあたる恩田川としてフィールドワークを実施した。 今年度は主に町田市域の恩田川源流域を歩き、源流域が南側が相模野台地、北側は多摩丘陵に位置していることから、地形や景観が異なる様相を示していることを確認できた。

(2) 連携調査研究

複数の時代・分野に関わるテーマについて、当財団が管理する諸施設との連携研究を実施した。

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
大塚遺跡の水田に関する研究（2／2 年次）	前年度の調査を経て、ボーリングコアの採取場所を大塚遺跡北部の谷戸と決定し、平成 3 0 年 3 月に 1 本ボーリング調査を行った。調査成果は 4 月に報告されたが、思うような結果を得ることができなかった。今回の調査の反省点を活かして、次年度以降も継続して実施する予定である。
ユーラシア概念をめぐる研究（2／5 年）	ユーラシア文化館と連携し、共同研究会を実施。歴史博物館学芸員および外部研究者の協力を得て、日本や東アジアを含むユーラシア諸地域の文化交流についての最新調査研究成果を共有した。各研究報告については、ユーラシア文化館紀要にて要旨を公開した。
昭和期の横浜の都市生活に関する調査研究（2／3 年次）	本年度は都市発展記念館と連携し、磯子区の時計店に勤務していた下平政熙氏の直筆日記（横浜都市発展記念館蔵）の昭和 12 年～14 年分および同館所蔵の当該時期の関連史料を考察し、『横浜都市発展記念館紀要』No. 14 で「昭和戦中期横浜の都市生活誌（上）—横浜市磯子区の下平政熙氏の日記から（2）」として報告した。
銭湯を中心とする横浜	本年は、開港資料館との連携展覧会「銭湯と横浜 ちょっと昔のお風呂屋さん

の公衆衛生に関する研究（2／2年次）	へようこそ！」を開催した。最大の成果はその準備の中で、横浜市内で具体的な銭湯の一覧（名簿）が残る昭和43年の銭湯の分布を把握できたことであった。その過程で、特定業種の名簿やこれまで歴史資料として活用されてこなかった全国各地の県人会名簿などを、地域史を描き出すものとして位置づけることもできた。今後、戦後横浜の発展の歩みをたどるにあたって、こうしたアプローチが有効になると考える。
--------------------	---

（3）企画展関係にともなう調査研究：企画展・特別展の開催に向けての調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
「ムラに生きる人々」に関する調査研究	30年度以降に開催する予定の企画展の検討と、基礎的な資料の調査を行った。
「人と物の流れ」に関する調査研究	30年度以降に開催する予定の企画展の検討と、基礎的な資料の調査を行った。
「変わる横浜の形」に関する調査研究	30年度以降に開催する予定の企画展の検討と、基礎的な資料の調査を行った。

（4）資料の調査整理

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
資料の整理	資料収集活動や調査研究で収集した資料・データ等の整理を行った。

**3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）**

常設展示室においては、展示ボランティアによる常設展示室の解説を充実させた。また、昨年に引き続き毎月最終土曜日のラストサタデープログラム実施日を「区民デー」とし、各区区民の観覧料を無料にして招待し、土器パズルやスタンプ等を開催する取り組みを行ったほか、収蔵資料などを公開する「ミニ展示」の開催期間を延長し、学芸員による解説を会期中2度ほど行った。

このほか展示資料・ジオラマ類・映像機器類の保守点検を実施した。



常設展示室での「スポーツ土器パズル」

（1）常設展示室での実施事業

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
区民デーの実施	横浜市18区の区民を順番に招待する区民デーを実施した。 西区4/29（土）、中区5/27（土）、南区6/24（土） 港南区7/29（土）、保土ヶ谷区8/26（土）、旭区9/30（土） 磯子区10/28（土）、金沢区11/25（土）、戸塚区12/23（土） 栄区1/20（土）、泉区2/24（土）、瀬谷区3/31（土）

常設展示ミニ展示の実施	<p>常設展示室で収蔵資料等を紹介するミニ展示を開催し、会期中、1～2日程度の展示解説を実施した。</p> <p>4/29 (土)「軽井沢古墳」 解説 計 14 人</p> <p>5/27 (土)「泉中央公園遺跡」 解説 計 17 人</p> <p>6/17 (土) -8/6 (日)「久良岐郡永田郷の中世文書」 解説 6/24 (土) 計 33 人、7/29 (土) 計 21 人</p> <p>8/19 (土) -10/1 (日)「御馬、みやこへ行くー古代の牧と馬をめぐってー」 解説 8/26 (土) 計 19 人、9/30 (土) 計 20 人</p> <p>10/7 (土) -11/26 (日)「こけしを伝える」 解説 10/8・9・28 計 20 人、11/25 (土) 計 18 人</p> <p>12/23 (土) -3/31 (土)「よみがえれ！ヨコハマのハニワたち」 解説 12/23 (土) 計 14 人、1/20 (土) 計 8 人、3/31 (土) 計 12 人</p>
-------------	---

(2) 常設展示室観覧者の推移 (目標数 75,500 人)

	有料観覧者 (人)				無料観覧者 (人)	合計 (人)	前年比	開館 日数	1日平均 入館者(人)
	大人	高大	小中	計					
29 年度	11,038	1,684	6,447	19,169	51,877	71,046	102.0%	310 日	229
28 年度	10,592	1,484	7,320	19,396	50,242	69,638	100.7%	311 日	223
27 年度	11,257	1,180	7,721	20,158	48,990	69,148	102.9%	314 日	220

(3) 展示解説ボランティア

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
展示解説ボランティア実施	ガイドボランティアによる常設展示室の解説を実施した。

#### 4 企画普及事業 (定款第 4 条第 1 項第 1 号②)

常設展示を補うテーマや、新たな調査研究の成果に基づく企画展示を開催しました。同時に、市民に横浜の歴史をより身近で興味深く感じてもらえるように各種の体験学習や歴史講座等を開催し、生涯学習活動を支援しました。

また、地域・学校や市民ボランティアと連携した事業や、施設や遺跡公園の有効活用と認知度・顧客満足度を高めるための事業を実施しました。とりわけ、地元都筑の区役所や市民活動団体と多彩な取り組みを実施し、いずれも好評を得ました。

(1) 企画展・特別展の実施

企画展名/開催期間	観覧料	観覧者数	目的・意図 及び 内容・成果
企画展「君も今日から 考古学者！ー横浜発 掘物語 2017ー」 平成 29 年 4 月 4 日 (火)～6 月 11 日(日)	大人 200 円 大高 100 円 小中	28,164 人 (目標数 27,000 人) 1日あたり	2015 年から 3 年間かけて試行してきた展示パッケージの決定版である。毎年 4～6 月に社会科見学で訪れる小学 6 年生を主なターゲットとして、考古学の基礎と横浜の遺跡について、わかりやすく伝える展示を目指した。一つの遺物から考古学によってどんな歴史が見え

会期 69 日	50 円	440 人	てくるのかを、ワークシートを解きながら見せる展示構成とした。展示資料は、基本的にすべて横浜市内から出土した財団関連施設保管資料である。 関連事業： 遺跡を掘ろう（擬似発掘体験） 11 回・370 人 遺跡に行こう（VR 体験） 22 回・774 人 親子フロレク（展示解説） 14 回・206 人 フロレク（展示解説） 3 回・99 人
テーマ展「ハマっ子、三浦半島をゆく」 平成 29 年 6 月 21 日（水）～7 月 17 日（月祝）会期 27 日	大人 200 円 大高 100 円 小中 100 円	3,477 人（目標数 2,500 人） 1 日あたり 129 人	横浜市域の南に接する三浦半島の歴史文化について、横浜市域との関連も意識しながら観覧者に紹介することを目的として実施した。第 1 部では江戸時代、第 2 部では弥生～古墳時代を扱った。展示資料は、第 1 部では館蔵の地図・錦絵・典籍・古文書類、第 2 部では神奈川県立歴史博物館所蔵の間口洞穴出土資料（神奈川県指定重要文化財）を中心とした。 関連事業： 7/1 講演会「海からみる江戸時代の三浦半島」 講師：神谷大介氏（東海大学） 44 人 7/9 講座「三浦半島の洞穴遺跡」 講師：高橋 健 46 人 フロアレクチャー のべ 4 回 70 人
企画展「丹波コレクションの世界Ⅱ 歴史×妖×芳年 “最後の浮世絵師” が描いた江戸文化」 平成 29 年 7 月 29 日（土）～8 月 27 日（日） 会期 30 日	大人 500 円 大高 200 円 小中 100 円	6,254 人（目標数 6,000 人） 1 日あたり 208 人	昨年好評だった「楽しい浮世絵ヒストリー」展を受け、神奈川県立歴史博物館所蔵の「丹波コレクション」の作品を、同館と連携して紹介する展示の第 2 弾として企画した。昨年のアンケートで得た、絵師やジャンルを絞った展示を見たいという要望を受け、月岡芳年に注目し、作品の内容とともに、背景にある明治時代の人々の意識や関心にも触れることを心掛けた。また、コレクターである丹波恒夫氏の略歴や、人となり的一端も紹介した。 <b>新たな試みとして、同時期に芳年の展示を開催した太田記念美術館と相互割引を行った。両館のチラシや Twitter で PR し、会期中当館での利用者は 221 人であった。</b> 関連事業 7/29（土）浮世絵スタンプ 10:00-15:00 73 人 7/30（日）浮世絵スタンプ 10:00-15:00 87 人 8/5（土）浮世絵スタンプ 10:00-15:00 56 人 8/6（日）浮世絵摺り実演とミニ体験

			<p>・11:00-18人 ・14:00-16人          浮世絵スタンプ 10:00-15:00 88人          8/11 (金祝) フロレク ・11:00-33人 ・14:00-16人          浮世絵スタンプ 10:00-15:00 62人          8/12 (土) フロレク ・11:00-21人 ・14:00-24人          浮世絵スタンプ 10:00-15:00 99人          8/13 (日) 浮世絵スタンプ 10:00-15:00 96人          8/19 (土) フロレク ・11:00-23人 ・14:00-29人          浮世絵スタンプ 10:00-15:00 75人          8/20 (日) フロレク ・11:00-29人 ・14:00-50人          浮世絵スタンプ 10:00-15:00 146人          8/26 (土) スペシャル展示解説          ・13:00-31人 ・15:00-42人          「パンチの守」による展示PR          浮世絵スタンプ 10:00-16:00 121人          8/27 (日) 浮世絵スタンプ 10:00-15:00 102人</p>
<p>企画展「横浜に稲作が          やってきた!？」          平成29年9月16日          (土)～11月12日          (日) 会期58日</p>		<p>5,977人          (目標数          6,500人)          1日あたり          119.5人</p>	<p>横浜市域において本格的に稲作が始まった時期である弥生時代中期後半に焦点を当て、土器研究や植物考古学など最新の研究成果を反映させつつ、当時の社会の動きや人々の生活の実態に迫る展示を行なった。大塚・歳勝土遺跡公園開園20年、三殿台考古館開館50年を記念して、横浜市歴史博物館と三殿台考古館、(公財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センターが連携して開催した。</p> <p>関連事業          小さな弥生土器作り 9/24 36人          ※使おう編は雨天中止          圧痕WS 10/17 17人          ドッキーWS 10/29 15人          遺跡散歩 11/3 30人          講演会 3回 のべ250人          フロアレクチャー 6回 のべ135人          アクセサリー作り 2回 のべ11人          ※ガラス玉編は三殿台で実施</p>
<p>企画展「横浜市指定・          登録文化財展」          平成29年11月2          5日(土)          ～平成30年1月8          日(月・祝)</p>	<p>200円          高校生以          下無料</p>	<p>6,194人          (目標数          4,500人)          1日あたり          193.6人</p>	<p>平成29年度に横浜市が指定した文化財、また重文となった文化財を全て紹介したほか、過去に市指定となった有形・無形民俗文化財を5件も展示した。会期中同じ会場で神奈川県埋蔵文化財センター主催「かながわの遺跡 群集する古墳」展が開催された。</p> <p>関連行事</p>

会期 32 日			街頭紙芝居実演 12/23 (土) 92 人 (1 日 3 回) 展示解説 12/9 (土) 午前 33 人午後 27 人、23 (土) 午前 43 人午後 28 人、1/8 (月・祝) 午前のみ 99 人 廻り地蔵の文化体験 11/25 (土)、12/2 (土) 13 人、9 (土) 17 人、16 (土 4 人)、23 (土) 10 人、1/6 (土) 24 人 講座 1/6 (土)「横浜の平安仏」78 人、1/7 (日)「街頭紙芝居の文化史」12 人
「銭湯と横浜 ちょっと昔のお風呂 屋さんへようこそ！」 平成 29 年 1 月 24 日 (水)～平成 30 年 3 月 21 日 (水) 会期 49 日	無料	17,633 人 (目標数 12,500 人)  1 日あたり 284.5 人	<b>開港資料館と連携した企画展として、銭湯が身近にあった高度成長期以降の昭和時代を中心に、戦後から現代に至るまでの横浜市内の銭湯の変遷、横浜の発展を支えた人びとへのやすらぎの場や衛生面を担ったお風呂屋さんの暮らしについて、広瀬始親氏撮影の写真やかつての銭湯組合の名簿など、多彩な資料から紹介した。身近な銭湯の歴史から都市横浜の発展を読み解く内容は銭湯ファンのみならず一般見学者にも好評であった。</b> 関連行事 2/4 (日) 展示解説 26 人 2/12 (月・祝) 展示解説 39 人 2/24 (土) 展示解説 18 人 3/3 (土) 展示解説 29 人 3/11 (土) 講座「横浜の銭湯いまむかしー昭和 43 年の銭湯分布図の中からー」37 人 3/18 (日) 展示解説 27 人 展示室内有料マッサージチェア利用 444 人

(2) 企画展示室観覧者の推移 (目標数 59,000 人)

	有料観覧者 (人)				無料観覧者 (人)	合計 (人)	前年比	開催 日数	1 日平均 入館者(人)
	大人	高大	小中	計					
29 年度	9,120	962	4,433	14,515	53,184	67,699	100.4%	245 日	276
28 年度	5,195	455	4,376	10,026	57,386	67,412	108.8%	240 日	280
27 年度	8,649	739	4,501	13,889	48,059	61,948	102%	245 日	253

(3) 歴史講座等の開催

講座名称/開催日	参加者数	事業内容
古文書解説教室 初めての古文書 H29. 11. 3(金) ～12. 22(金) 毎金曜 8 回連続	各回 19 人 (目標数 40 人) 合計 152 人	初心者を対象に江戸時代の古文書を教材として解説の初歩を学ぶ講座を行った。 講師：小林、吉崎 会場：歴史博物館 研修室 参加料：5,000 円

<p>歴史講座</p>	<p>合計 597 人</p>	<p>当館の館長や学芸員を講師とし、「講座横浜の歴史」と題して毎月第2土曜日に歴史講座を開催した</p> <p>参加料：500円</p> <p>5/14（日）横浜の遺跡展講演会「港北ニュータウン弥生時代中期の権田原遺跡」鈴木重信・伊丹徹 85人</p> <p>6/11（日）「土器作りと考古学」橋口 19人</p> <p>7/9（日）「三浦半島の洞穴遺跡」高橋 46人</p> <p>8/13（日）「近世村落の知行形態」井上 49人</p> <p>9/10（日）「古代の牧と馬をめぐって」柳沼 54人</p> <p>10/8（日）企画展講演会「宮ノ台式土器の成立と弥生時代研究」石川日出志 95人</p> <p>11/5（日）企画展講演会「環濠集落」小倉淳一 85人</p> <p>12/10（日）「ある土豪の戦国・近世」阿諏訪 36人</p> <p>1/7（日）「街頭紙芝居の文化史」刈田 12人</p> <p>2/11（日）「戊辰戦争と横浜の村々」 79人</p> <p>3/11（日）企画展講座「横浜の銭湯いまむかしー昭和43年の銭湯分布図の中からー」 羽毛田 37人</p>
<p>開館23周年記念 特別講演会 1/14（日）</p>	<p>245人 (目標数 150人)</p>	<p>開館23周年を記念して「織田信長の天下構想」と題し、五味文彦理事長による講演会を行った。</p> <p>講師：五味文彦氏（横浜市ふるさと歴史財団理事長）</p> <p>会場：歴史博物館 講堂</p>
<p>実験考古学講座 「縄文土器づくり」 H30.2.10(土) ～3.25(日)全5回</p>	<p>申込20人 (目標数20人) 合計100人</p>	<p>実験考古学的な視点から港北ニュータウン出土の縄文土器をモデルにした土器づくり講座を行った。実技は横浜縄文土器づくりの会が指導した。今回は初めて第5回目として使用実験をプログラムに組み入れた。</p> <p>また参加者の作品を展示室前廊下にて「わたしたちの作った縄文土器」として展示した(平成H30.3.27(火)～3.31(土))。</p> <p>会場：工房・遺跡公園体験広場</p> <p>参加料：5,000円</p>
<p>講師派遣</p>		<p>各区や地域の郷土史団体等が主催する講座・講演会へ学芸員を派遣した。</p> <p>6/14（水）「鶴見川の水運」刈田 青葉区郷土史の会</p> <p>7/30（日）「セッションⅢ学校と地域 地域史惣寄合」小林 鎌ヶ谷公民館</p> <p>8/1（火）「小机城の歴史」阿諏訪 お城 EXPO2017 実行委員会</p> <p>9/13（水）「幕末、横浜の歴史」小林 港北ボランティアガイド</p> <p>10/8（日）「横浜の中世文書について」阿諏訪 神奈川県立公文書館</p>

		<p>10/14 (土)「江戸近郊農村の戊辰戦争」小林 東海大学</p> <p>10/21 (土)「江戸時代の神奈川湊」吉崎 神奈川区図書館</p> <p>10/21 (土)「青葉区に残る江戸時代の歴史」小林 青葉区</p> <p>10/21 (土)「“はぎとり”で保存する」橋口 神奈川県立生命の星・地球博物館</p> <p>10/21 (土)「戦国蒔田の吉良氏 まぼろしの蒔田城」阿諏訪蒔田の吉良歴史研究会</p> <p>12/12 (木)「神奈川の浦島伝説」阿諏訪 横浜市立大学</p> <p>12/12 (木)「近代横浜の海運」吉崎 保土ヶ谷ロータリークラブ</p> <p>1/19 (金)「都筑区にやって来た旧石器時代の人びと」橋口 都筑区老人クラブ連合会</p> <p>2/13 (火)「街頭紙芝居の歴史とこれから」刈田 紙芝居文化推進協議会</p> <p>2/24 (土)「都筑の江戸時代」井上 都筑区役所・都筑図書館</p> <p>3/18 (日)「緑区の知識人から見た幕末の神奈川宿」小林 緑区市民活動センター</p>
--	--	--

(4) 体験学習の実施

会場/開催日	参加者数	参加料	事業内容
体験学習室 毎日開催 (空調工事のため1/23～ 3/31 閉室)	43,912 人	無料	さまざまな道具に直接触れ、歴史を実感できる内容のプログラムを時季に応じて実施した。なお施設改修のため、1/23～3/31の期間は閉室した。 常時開催：銅鐸、鉦、駕籠、火打石、鎧と兜等ミニ展示 <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生見学対応プログラム 3/31 (金)～6/29 (木)</li> <li>・ちょっと昔を探してみよう・夏 7/1 (金)～9/28 (木)</li> <li>・ミニおにぎり展 9/30 (土)～11/30 (木)</li> <li>・ちょっと昔を探してみよう・冬 12/2 (土)～3/21 (水)</li> </ul> →1/23 企画展内「タイムスリップ昭和」に移設
体験コーナー H29.4月 ～H29.6月		無料	小学校団体が多い4～6月にかけて、2階廊下で火起こし疑似体験できるコーナーを設置し、活動支援ボランティアによるミニ体験を実施した。
れきし工房 (年度通算9日15回)	247 人	各プログラム で異なる	従来の体験学習をリニューアルし、小学生から大人までを対象に、楽しみながら歴史に触れるワークショップを開催した。

			4/23(日) まゆ細工 AM4人 PM3人 7/30(日) 小田原ちょうちん AM19人 PM17人 8/18(土) 大漁祝いの萬祝染 PM19人 8/19(日) 大漁祝いの萬祝染 AM18人 PM14人 9/24(日) 小さな弥生土器をつくろう 36人 12/17(日) 和風 AM13人 PM19人 2/18(日) 小さな縄文土器 AM19人、PM20人 3/3(土) 紙すき AM16人 PM14人 3/4(日) 和綴じ手帳 16人
ナイトミュージアム	27人	大人1000円高 大700円小中 400円	大人や家族連れを対象に、夜間の博物館の展示室と遺跡公園の見学会を実施した。 9/23(土祝) 27人
あじろ編み ワークショップ	20人	300円	夏休み期間中に「横浜歴博もりあげ隊」によるワークショップを実施した。8/11(金祝) 5人・8/12(土) 9人・8/26(土) 6人
竪穴住居に泊まろう	8家族 23人 (目標数 8家族)	大人1500円、 子供700円	小学生を含む家族を対象に遺跡の竪穴住居に宿泊する体験教室。火起こし・竪穴住居での食事・夜の遺跡見学・宿泊体験を実施した。7/22(土)～7/23(日) 8家族 23人
出張ワークショップ	60人	500円	都筑地区センターの事業に共催し、勾玉作りのワークショップを同センターで実施した。11/18(土)
体験広場野焼き		無料	横浜縄文土器づくりの会と協働で、体験学習や会の事業として制作した土器等の野焼きを行い、市民に公開した。 5/5(金祝)、10/22(日)、3/24(土)

(5) 「夏休み博物館たんけん隊」の実施

会場	開催日	参加者数	事業内容
常設展示室 企画展示室 博物館バックヤード	8/11	15人	博物館を楽しみながら関心を高めてもらうために、親子や児童生徒を中心に開催した。 内容：博物館バックヤード見学、赤外線テレビカメラでの調査体験、常設展示室の照度測定体験など。

(6) 集客イベント等

項目	開催日	参加者数	事業内容
都筑阪急 モザイクモール観覧車	4/4～6/11、 3/17・18・21	1088件	都筑阪急とタイアップ。入館券の半券ないし特別チケットでモザイクモール観覧車に招待。

無料招待			企画展・横浜発掘物語2017、センター北まつり・春のサンクスデー 計63日間
開港記念日	6/2 (木)	2,439 人	開港記念日を祝し、全館無料で公開したほか、富士ゼロックスと連携したレキコラや学芸員による開港期のフロアレクチャーを行った。
チボリ兄弟舎紙芝居	8/5(土)・6(日)	192 人	街頭文化祭と題し、夏季集客事業の一環として、紙芝居の普及を目的に実施した。
博物館感謝デー	1/27・28(土・日)	5,538 人	常設展示室・企画展示室の無料開放。グランバルーン、大道芸(番台家謝・toMansion)、紙芝居、スポーツ土器パズル、ショップフェア等を実施した。
ラストサタデープログラム	全12回		学芸員によるミニ展示解説、土器パズル、スタンプのほか、4,5,6月には正面玄関にて火起こし体験を実施した。
おもしろいぞ!紙芝居	毎月最終土曜日(全12回)	813 人	ラストサタデープログラムに併せ、当館が管理している横浜市指定有形民俗文化財の街頭紙芝居を活用し、複製の実演を行った。
「子どもアドベンチャー2017」への参加	8.18(金)(2回)	58 人	市教育委員会主催の子ども向け夏休み企画「子どもアドベンチャー2017」に参加。絵巻物や考古資料の取扱いを体験し、バックヤードの見学も実施。



子どもアドベンチャー



博物館感謝デー

(7) 地域や多様な組織との連携(共催事業、協力事業、協賛事業、後援事業等)

項目	開催日	参加者数	事業内容
トピアリーアニマルを探せ Keyword ラリー(協力)	～4/2(日)		前年度からの継続事業。タウンセンター地区活性化と全国都市緑化よこはまフェア PR のため、タウンセンター地区活性化検討会が共催した Keyword ラリーに参加・協力した。

バクの流域ワンダーランド・学習スタンプラリー（協力）	4/29（土）～ 10/29（日）		鶴見川流域ネットワークが主催する、鶴見川流域水マスタープランの普及を目的とした「バクの流域ワンダーランド・学習スタンプラリー」について、スタンプ拠点として協力した。 主催：鶴見川流域ネットワーク
民俗学講演会（共催）	5/21（日）	57人	相模民俗学会に共催し、渡邊欣雄氏（東京都立大学名誉教授）を講師に迎えて「東アジアのお墓と風水」と題した民俗学講演会を開催した。 主催：相模民俗学会
都筑・遺跡公園・民家園アート月間（共催）	7.26（水）～ 12.26（火）	10,000人	遺跡・文化財を有する大塚・歳勝土遺跡公園、博物館等を会場に、「創作狂言」などの「日本を知る」文化イベントを実施し、地域連携・交流を図った。 主催：NPO 法人都筑民家園管理運営委員会
かながわ考古学財団発掘成果発表展示（共催）	6/27（火）～ 7/17（月祝）		博物館2階常設展示室前ロビーを利用して、神奈川県内の発掘成果発表展示をかながわ考古学財団と共催して開催した。 主催：かながわ考古学財団
かながわ考古学財団発掘成果発表会（共催）	7/8（土）	78人	発掘成果発表展示の会期中にかながわ考古学財団と共催して開催した。 主催：かながわ考古学財団
都筑図書館郷土展示（共催）	7/22（土）、23（日） 2/18（日）～27（火）		<b>都筑区史編纂の関連事業として都筑図書館で茅ヶ崎城関連（7月）と「江戸時代都筑の村絵図」（2月）の展示を開催した。</b> 主催：都筑区役所・都筑図書館
学校資料シンポジウム（共催）	8/6（日）	82人	地方史研究協議会と「学校資料の未来」をテーマにしたシンポジウムを当館で開催した。 主催：地方史研究協議会
セミナー「日本を知ろう！ 重陽の節句」（共催）	9/9（土）	20人	アート月間の一環であるとともに「都筑の歴史刊行イベント」も兼ねたセミナーに講師を派遣した。主催：NPO法人都筑民家園管理運営委員会
相武地域史研究会シンポジウム（共催）	10/14（土）	260人	<b>東海大学と県下の歴史施設で構成する研究会が「明治維新150年」をテーマにシンポジウムを開催した。</b> 主催：東海大学
お城EXPO出張展示・出張ワークショップ（協力）	12/22（金）～ 24（日）		パシフィコ横浜に依頼され、横浜中世城郭の写真パネル展とワークショップを開催した。 主催：パシフィコ横浜

つづきアート&ミュージック・ネクスト（共催）	2/17（土）	213人	障がいのある方が「歴史…つなぐ…未来」をテーマに作品公開や様々なパフォーマンス（当館講堂）を行った。 主催：つづき地域ホームくさぶえ
神奈川県考古学会遺跡発表会（共催）	3/4（日）	105人	神奈川県考古学会に共催し、考古学講座「謎の敷石住居の現在－縄文時代中期から晩期の集落－」を開催した。 主催：神奈川県考古学会
あったか復興支援「わすれない3・11応援しよう都筑から」（共催）	3.10 （土）	237人	エントランス（132人）と講堂（105人）を会場に、少年少女の合唱や被災地からの報告会を行った。主催：NPO法人結ぶ
富士ゼロックス（株）と歴史文化普及啓発に関する協定締結			昨年富士ゼロックス（株）と歴史文化普及啓発に関する協定を締結したが、今年度も企画展における3D見学などを実施した。
都筑区史への連携・協力	2/24（土）		平成31年に刊行予定の「図説 都筑の歴史（仮題）」の編纂事業に財団の他施設と共に協力した。2月24日には「図説都筑の歴史」刊行プレイベントとして、講演会「都筑の江戸時代」を講堂で開催した。
「むかし体験」訪問歴史授業の実施			金沢区から委託を受け、金沢区内の小学校に保存されている民俗資料を活用した訪問授業事業を実施した。
青葉アートカンファレンス（協力）			「AOBA デジタル・アートミュージアム」の構築に向けた青葉区のカンファレンスに参画した。 主催：青葉区

（8） エントランスホールコンサートの実施

当館の認知度を高め、新規来館者の開拓を図るため、横浜歴博もりあげ隊と共催でエントランスホールを会場としてコンサートを開催した。

事業名/開催日	事業実績等
横浜歴博もりあげ隊 「早春のバロック・コンサートinMuseum」 H30.2.25（日）	演奏者：湘南バロック・アンサンブル 来場者数：130人

（9） ボランティアの活動支援

項目	事業内容
展示解説ボランティア	・市民ボランティアにより、小中学校団体、及び一般来館者へ、常設展示室、大塚・歳勝土遺跡公園、旧長沢家住宅の無料解説ガイド

	<p>を行った。</p> <p>当事業は、ガイド研修を通じて登録者の歴史学・考古学に関する自己学習・生涯学習の支援を兼ねている。</p> <p>① ガイド登録者数：94人</p> <p>②登録期間 2年間（但し、希望者は延長更新可）</p> <p>③基本ガイド時間 小学校団体 45分間 一般 60分間 常設展 常設展見学者の要望に応じてガイドを実施するため、内容次第。</p>
活動支援ボランティア	<p>・学校団体来館時の対応や、ラストサタデープログラム、その他の集客イベントなどの事業を支援してもらうことを目的とした、活動支援ボランティアを実施した。</p> <p>② 登録者数：47人</p> <p>③ 活動実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4～6月学校団体対応火起こし疑似体験のべ391人</li> <li>・4,5,6月(火起こし体験3日間)15人</li> <li>・ラストサタデープログラム体験イベント</li> <li>6,7,8,9,10,11,12,1,2,3月(土器パズル,ぬりえ,スタンプ)102人</li> <li>・大塚遺跡まつり(含講習会)のべ32人</li> <li>・企画展「横浜発掘物語 2017」ワークショップ(3D遺跡見学)24人</li> <li>・開港記念日ワークショップ(レキコラ)4人</li> <li>・<b>土器圧痕調査 57人</b></li> <li>・浮世絵版画スタンプ52人</li> <li>・チケット切・封入作業・送付作業)23人</li> <li>・都筑区民まつり8人</li> <li>・秋のサンクスデー20人</li> <li>・廻り地蔵ワークショップ14人</li> <li>・感謝デー19人</li> <li>・センター北まつり17人</li> <li>・春のサンクスデー6人</li> </ul> <p>(その他、研修や横浜都市発展記念館・ユーラシア文化館での活動有り)</p>
展示解説ボランティア研修の実施	<p>・館外研修会・研修講座等を開催した。</p>

展示解説ボランティア活動実績

項 目		平成29年度		平成28年度		平成27年度
		遺跡	常設	遺跡	常設	
活 動 実 績	ガイド実施日数(日)	309	306	309	306	313
	解説回数(回)	1,183	830	1,091	572	1,191
	1日平均解説回数(回)	3.75	2.71	3.53	1.87	3.72
	参加者数(人)	23,766	2,525	23,019	1,747	26,036
	団体対応(件)	270	25	275	16	291
	団体のうち学校数(校)	209	-	218	-	261

(10) 学校連携事業の実施

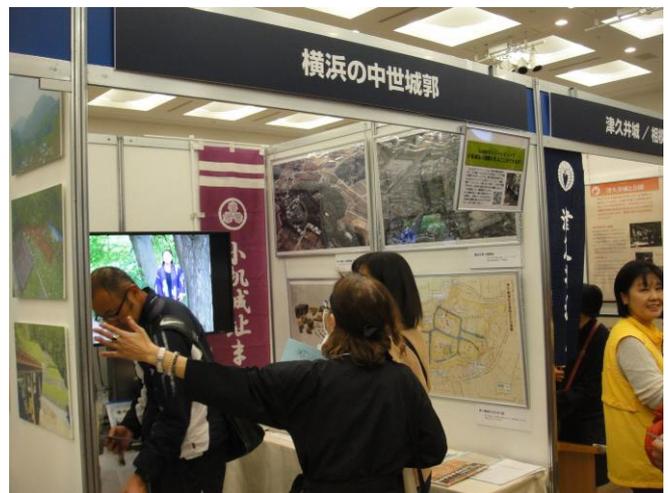
学校利用を促進するために、エドューケーターを中心に「学校の博物館利用研究会」及び「教材開発研究会」を運営し、展示資料案内の作成、また、「吉田新田」「出張土器づくり」についての小学校への出前授業と、近隣4区の小学校向けに常設展示室で吉田新田の説明を行いました。また、教職員を対象とした、吉田新田の学習会を行い、各区社会科研究会研修会の運営に参加協力しました。

事業名/開催日	事業内容等
教職員研修	市教育委員会が主催する「博物館活用研修」を実施し、市立小学校教員を対象に博物館の施設見学、火起こし体験、大塚遺跡の解説を行なった。実施日：7/28(金)AM・PM
臨時開館	学校団体の来館が多い4・5月の月曜日に臨時開館し(4日間)、混雑緩和と積極的な学校団体誘致を図った。
吉田新田訪問授業 8校 25学級	10/13 太尾小 4クラス 10/17 東小 2クラス 10/25 さちが丘小 4クラス 11/1 神橋小 3クラス 11/7 峯小 2クラス 11/15 さつきが丘小 3クラス 11/17 川上北小 4クラス 11/22 東市ヶ尾小 3クラス
文化庁補助金に関連した 学校資料室への訪問授業等 3校 12学級	1/16 都田西小 5クラス(廻り地蔵・訪問授業) 2/1 都田小 2クラス(廻り地蔵・訪問授業) 1/31・2/1 森の台小 5クラス(於川和小)
常設展示室 吉田新田説明 3校 7学級	10/26 中川小 3クラス 11/10 横浜三育小 1クラス 12/13 牛久保小 3クラス
縄文土器づくり 出張授業 1校	横浜縄文土器づくりの会との協働で、市内の公立小学校へ出張して、土器づくりの指導を行った。 権太坂小学校(保土ヶ谷区)

	10/13 (金)・11/1 (水)・11/21 (火)
教職員対象の吉田新田の学習会	授業での学習ポイントを説明 8/2 (水)
中学校社会科教育研究会作品展	横浜市立中学校生徒の社会科の研究成果を発表する「中学校社会科教育研究会作品展」を初めて常設展示室で開催した。 12/16 (土)～1/8 (月祝) 併せて、中学校社会科研究発表会を展示初日になる12/16 (土)に開催した。
学校団体の博物館見学申込システムの運用と開発	6学年の校外事業に伴う見学をインターネット申込とし、業務の軽減とサービスの向上を図った。また3、4年生の団体見学・訪問授業に対応した申込システムの開発を行ない、平成29年度からの運用を開始した。



社会科作品展会場 (常設展示室)



お城 EXPO 会場 (パシフィコ横浜)

#### (11) 市民諸団体との協働事業

当館では市民と共に歩む博物館を目指して、博物館に集う市民諸団体と博物館のあり方を検討しつつ、協働事業を実施しました。当館主催の講座OB会である「横浜古文書を読む会」、「横浜縄文土器作りの会」、「横浜古代史料を読む会」、ガイドボランティアのOB会である「横浜さいかちの会」の4団体は、博物館と連携して定期的な活動を行っています。定期的な活動以外には、臨時講座の開催や出張授業や講座への協力なども実施しています。また、博物館の支援、博物館との協働を目的に結成された「横浜歴博もりあげ隊」は、その活動の幅を広げていました。

項 目	事 業 内 容
「横浜古文書を読む会」との協働	毎月2回の講座の開催と、有志による「下読みの会」の実施。 ・『博物館紀要』での資料紹介。
「横浜古代史料を読む会」との協働	・古代史の講演会の実施
「横浜縄文土器作りの会」との協働	・出張土器づくり教室(権太坂小学校)を実施した。 ・実験考古学講座「縄文土器づくり」全5回の技術指導を実施した。 ・横浜縄文土器づくりの会作品展(12/17～1/28)を開催した。 ・私たちがつくった縄文土器展を開催した。

「横浜さいかちの会」との協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季の史料購読講座の開催。</li> <li>・「日本書紀」を読む講座の開催。</li> <li>・<b>ガイドボランティア研修（座学・フィールドワーク）の連携実施。</b></li> </ul>
「横浜歴博もりあげ隊」との協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あじろ編みワークショップの実施（夏期4回）</li> <li>・近世史講座（2回）の実施。</li> <li>・古代史の講演会の実施</li> <li>・開港記念日におけるワークショップの協力</li> <li>・博物館感謝デーでのクイズラリー、中国編みワークショップの実施。</li> <li>・<b>パシフィコ横浜「お城EXPO」でのあじろ編みワークショップの実施</b></li> <li>・「博物館デビュー支援事業」のフォーラム受付支援。</li> </ul>

(12) 学校団体利用の推移（目標数 500 校）

項 目	平成29年度	平成28年度	平成27年度
学 校 数 (校)	362	364	400

うち小・中学校利用数

項 目	平成29年度	平成28年度	平成27年度
学校数 (校)	331	347	370
児童・生徒数 (人)	28,855	30,966	34,353

(13) 実習・研修の受け入れ

項 目	事 業 内 容
博物館館務実習などの受け入れ	<p>博物館学芸員資格の取得を目指す「博物館実習」受講生を受け入れ、指導を行った。</p> <p>10名 9日間（6～11月）</p>
社会研修の受け入れ	<p>生徒・学生・社会人の職場体験・研修等を受け入れた。（延人数）</p> <p>大学生</p> <p>社会体験実習（学習院大学） 1名 7/22、8/19、9/23</p> <p>地域史演習（東海大学） 7名 8/5</p> <p>高校生</p> <p>県立高校インターンシップ 5名 8/2（水）～8/5（土）</p> <p>中学生職場体験</p> <p>日吉台中学校（港北区）4名（のべ8名）7/5・6（水・木）、あかね台中学校（青葉区）4名（のべ8名）8/29・30（火・水）、川和中学校（都筑区）4名（のべ8名）9/13・14（水・木）菅田中学校（神奈川区）4名（のべ8名）9/21・22（木・金）、横浜国立大学附属中学校（磯子区）4名（のべ8名）10/5・6（木・金）、森村学園中部（緑区）2名（のべ4名）10/21・22（土・日）、中川中（都筑区）</p>

	4名（のべ8名）11/9・10（木・金）、すすき野中学校（青葉区）2名（のべ4名）11/28・29（火・水）、矢向中学校（鶴見区）3名（のべ5名）12/7・8（木・金）
--	--

(14) 広報広聴

項 目	事 業 内 容
広報	市営地下鉄6駅構内の広報案内看板による広報 博物館近隣の広報案内看板による広報 インターネットによる広報 都筑区民まつり・センター北まつりへの出店参加による広報 市営地下鉄車内吊り広告による広報 ソーシャルメディアネットワークによる情報発信 全国博物館施設、市内公共施設、学校に向けた広報 マスコミ各社への情報提供 センター北駅デジタルサイネージ広告の実施 <b>センター北駅1番出口広告掲示板（8ヶ所）による広報</b>
地域文化財情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バクの流域ワンダーランド・学習スタンプラリー※</li> <li>・かながわ考古学財団発掘成果発表展示・発表会※</li> <li>・都筑・遺跡公園・民家園アート月間※</li> <li style="padding-left: 20px;">※いずれも詳細は（7）参照</li> <li>・関家住宅の公開、関連マップの作成</li> <li>・都筑民家園の多言語リーフレットの作成</li> <li>・かやぶきプロジェクトの実施</li> <li style="padding-left: 20px;">※いずれも博物館デビュー支援事業参照</li> <li>・「亀さんぽ」（神奈川宿歴史散策マップ）作成</li> </ul>
市民ニーズの把握	企画展など当館が企画した行事でアンケートを実施したほか、開港記念日には対面によるモニタリングを行った。
催事申込システムの運用	ワークショップ「れきし工房」や各種講座・講演会、ガイドボランティアの募集等にインターネットを利用した催事申込システムを活用した。

(15) 出版

項 目	事 業 内 容
リーフレット類作成	歴史博物館案内パンフレット 歴史博物館案内児童用パンフレット 歴史博物館催し物案内（年2回） 通史展示解説シート 大塚歳勝土遺跡公園パンフレット

出版物発行	横浜市歴史博物館ニュース No.43	8,000部作成
	No.44	11,000部作成
	横浜市歴史博物館資料目録 第25集	700部作成
	横浜市歴史博物館紀要 第22号	800部作成
	横浜市歴史博物館調査研究報告 第14号	1000部作成

## 5 学校内歴史資料室を活用した博物館デビュー支援事業

公開承認施設である当館を中核館として、「博物館デビュー支援事業実行委員会」を組織し、文化庁からの補助金を受け、以下の事業を実施した。

項 目	事 業 内 容
①学校文化財にかかわる総合的 振興事業	<p>1. 学校内歴史資料室振興事業の実施</p> <p>(1) 学校内歴史資料室の資料整理・展示リニューアル</p> <p>① 資料整理・保管環境改善作業</p> <p>以下の3校の学校内歴史資料室の資料整理をおこなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・金沢区富岡小学校郷土資料室 資料整理：672点</li> <li>・神奈川区羽沢小学校郷土資料室 資料整理：248点</li> <li>・戸塚区名瀬小学校谷戸の資料室 資料整理：238点</li> </ul> <p>② 展示改善・リニューアル作業</p> <p>以下の各校の学校内歴史資料室の展示改善をおこなった（改善作業中也含む）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鶴見区生麦小学校郷土資料館 改善完了</li> <li>・南区別所小学校別所村郷土館 改善完了</li> <li>・金沢区富岡小学校郷土資料室 改善完了</li> <li>・戸塚区東汲小学校郷土資料室 改善作業中</li> </ul> <p>(2) 総合的な情報の発信・交換</p> <p>フォーラムの開催、報告書の作成</p> <p>①以下の教育フォーラムを開催した。</p> <p>○名 称 「第5回学校に歴史資料室をつくっちゃおう！！フォーラム in 歴博」</p> <p>○開催日時 平成30年2月3日（土） 10:00～15:00</p> <p>○会 場 横浜市歴史博物館・講堂</p>
	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">本事業の実施成果・効果</p> <p>中心となる構成事業である学校文化財振興事業では、学校内歴史資料室に所蔵されている学校文化財の調査、整理・目録化、展示の改善を行った。これらは初年度以来の博物館デビュー支援事業の中核であり、今年度も要請のあった学校を中心に実施した。</p> <p>●学校文化財の資料整理では、専門スタッフや市民スタッフを派遣し、文化財の調査や整理指導をおこなった結果、新たに3校分で1,158</p>

	<p>点の整理を完了した。平成 25 年度の事業開始以降では 10,535 点にのぼり、貴重な地域の文化財の所在の確認や保全に貢献したほか、学校文化財という新たな存在をひろく周知することができたといえる。同時に、利活用に向けた展示の改善も、前年度以前に整理が完了した学校も含めて、新たに 3 校分が完了し、新年度からの活用に向けた準備を進めている。</p> <p>●2 月 3 日（土）には「第 5 回、学校に歴史資料室をつくっちゃおう！フォーラム in 歴博」を開催し、全国から 40 人の参加者を得たほか、昨年度に引き続き学校内歴史資料室運営者ネットワークの交流のために定期的な情報交換会を 3 回開催し、それぞれ 10 名を越える関係者が交流を深めた。また、今年度は学術団体である地方史研究協議会と共催し、8 月 6 日（日）には「学校資料シンポジウム「学校資料の未来～地域資料としての保存と活用～」」を開催した。博物館・行政・研究者・市民・教員など、幅広い参加者は 86 名を数え、所属の幅が学校文化財に対する関心の広がりを示す結果となった上、当館の進める取組を周知する好機となった。</p>
<p>②「日本を知ろう」国際観光拠点づくり事業</p>	<p>1 観光拠点化のための課題解決策の検討に関する事業  (1) 観光拠点化に向けた情報の国際発信  (2) 遺跡公園・周辺のエリアマネジメントの調査</p> <p><b>2 総合イベント「アート&amp;ヒストリー」日本を知ろう！の開催</b>  <b>(1)「日本を知ろう！」イベントの実施</b></p> <p>3 ユニークベニューとしての夜間利用イベントの招致・実施事業  (1) ユニークベニューとしての夜間利用イベントの実施</p> <p>4 住宅地内文化施設の活性化に向けた事業  (1) 住宅地内文化施設の活性化に関する取組の実施</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>本事業の実施成果・効果</p> </div> <p>本事業では、実行委員会の構成団体である都筑民家園・中核館が中心となり、主に 8～3 月にかけて、総合イベント「日本を知ろう！」を実施し、ユニークベニューの手法を用いた文化施設の観光拠点化に向けた取組をおこなった。</p> <p>●中心となったイベント「遺跡オーガニックマルシェ」は、昨年より開催日数を 2 日に増やし、都内や近郊のエリアからの 2,700 人の来場者を得たほか、「ARTS &amp; CRAFTS・お月見ライブ・テーブルコーディネート・狂言サロメ」など従来の古民家施設では見られないアートと歴史を融合させた多彩な実施事業は多くの来場者を得た。</p> <p>●いっぽうで、竪穴住居や古民家といった茅葺き屋根の建築に着目し、各時代の歴史を結ぶそれらの施設維持活動を観光資源にする「かやぶきプロジェクト」の実施など、従来の発想にとらわれない企画は見学者の目を引いたほか、文化庁ふるさと文化財の森である「朝霧高</p>

	<p><b>原茅場」とのネットワーク作りやボランティア参加者との人脈形成にも繋がった。</b></p> <p>こうしたユニークベニューや従来の発想にとらわれない文化施設の観光利用は、2020年の観光客誘致はもとより、新興住宅地内に位置するが故の近在の潜在的な利用者のニーズを掘り起こした。今後はこうした取組が他の自治体の参考となるよう、深化させ新たな事業展開を図りたい。</p>
<p>③多言語・多文化交流プログラム推進事業</p>	<p>1 多言語コンテンツの提供に向けた各種事業の実施</p> <p>(1) 英語版ガイドブック等の刊行事業</p> <p>2 訪日客の文化施設ニーズ把握に向けた文化交流事業</p> <p>(1) 多文化交流イベントの実施と訪日客ニーズの調査の実施</p> <p><b>本事業の実施成果・効果</b></p> <p>本事業では、当初の計画では多言語コンテンツの充実に向けた、中核館の英語ガイドブックの制作を予定していたが、実行委員会構成館である都筑民家園の要請で、近年増加が著しいアジア系の来館者に対する案内パンフレットの多言語化と、従来取り組んできた多文化交流イベントの実施をおこなった。</p> <p>●昨年度以来、観光拠点事業によるさまざまな取組の成果もあり、都筑民家園では外国人利用者が増えている。そこで、本年は基本案内パンフレットの多言語化に取組み、中国語と韓国語の案内パンフレットを制作した。今後はそのコンテンツを活かしてウェブサイトの多言語化を進め、英中韓の日本語以外の基本的な言語に対応していきたい。</p> <p>●また、同じく実行委員会構成館である横浜ユーラシア文化館が進める多言語多文化理解を目的としたモンゴル・日本文化の交流事業を実施した。モンゴル人のコミュニティの協力による、実物のゲルの組み立てや衣装の試着・楽器の演奏体験など、横浜の中心部に居ながらモンゴル文化を体験することができる企画は好評で、馬頭琴の演奏会や演奏体験ではのべ 1332 人を数えた。さらには、小学2年生の国語科で取り扱う「スーホの白い馬」との連携に向けた解説パンフレットの制作もおこない、今後の展開を見据えた基盤を固めることができた。</p>
<p>④地域の非活性文化財の魅力再発見事業</p>	<p>1 非活性文化財建造物の現状把握に向けた各種事業の実施</p> <p>(1) 現状把握調査と活用に向けた内容検討</p> <p>2 理解促進・活用に向けた試行的活性化事業の実施</p> <p>(1) 活性化に資する試行的事業の実施</p> <p><b>本事業の実施成果・効果</b></p>

	<p>本事業は、今年度あらたに取り組みを開始した構成事業である。主には、さまざまな理由によって非活性状態にある多様な文化財を、観光拠点事業等に繋げることを主眼に、基礎的な情報整理やトライアル的なイベントを実施し、その可能性を探るものであった。</p> <p>●今年度は中核館に至近の国重要文化財建造物である関家住宅に関する取組をおこなった。江戸初期の古民家でありながら、居住中であるために、十分な公開や活用ができていなかった同家を対象に、ガイドブック・近隣文化施設を結ぶためのMAP作成などを用いて地域の歴史や文化の中に位置づけ、さらに建造物自体を公開する事業を行った結果、136名の参加者を得た。公開に際し、付帯文化財として古文書や民俗資料の存在を確認し、その一部の整理が課題として残ったが、建造物の魅力を引き出すものとして一括した対応を今後も行っていく。</p> <p>●また、ガイドブックやMAPの作成に際し、中核館を中心とした徒歩圏内に、茅ヶ崎城跡や旧商家中山家といった未来の文化財候補地やそこに付帯する文化財の所在を確認した。周辺地域住民の興味関心が高まりつつあるこれらの文化財を磨き上げ、“町”といったよりミニマムな単位で日本文化を発信することができる観光拠点事業に繋げていく。</p>
<p>⑤未来の博物館を支える人材育成プログラム事業</p>	<p>1 博物館の未来を支える人材の育成に資する事業</p> <p>(1) 三世代来館促進ツール製作事業の実施</p> <p>(2) 複製紙芝居を用いた来館機会の提供</p> <p>(3) 「中高生・学芸員ユースプログラム」の実施</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>本事業の実施成果・効果</p> </div> <p>本事業は博物館デビュー支援事業の一翼を担う、未来の博物館を支える人材育成に資する事業を中心に構成されている。従来より継続している未就学児向けの歴史絵本の制作をはじめ、指定文化財の街頭紙芝居の複製制作や上演者の育成などに加え、新たな博物館ファン層拡大を目的に今年度は下記の取組を充実させた。</p> <p>●紙芝居の複製制作は147巻に及び前事業からの通算では667巻となったほか、昨年度より実施している上演者育成講座の修了生も7名となり、複製紙芝居を用いた修了者の活動の幅が広がっている。博物館での定期紙芝居上演・特別上演は、のべ1932人以上の見学者を集め、リピーターの子どもの達も確実に増えている。</p> <p>●今年度はあらたに、中核館に保管されていたもののこれまでに活用されてこなかった時間制限式の土器パズルにルールを設け、小学校高学年から中高生でも楽しめる「スポーツ土器パズル」を7回実施した。1月末にはチャンピオン大会も開催し、家族で楽しむ姿も見られた。これは、中核館開館時に制作されたもので、非常に優れた機器で</p>

	<p>あるにも関わらず、近年は活用の機会がなかったものである。こうしたかつての財産を眠らせている博物館は全国に多くあり、切り口によっては魅力的な素材として活用できることを示した。</p> <p>●また、歴史かるたやデジタルゲーム化の検討の中で、その素材として博物館の展示資料をもとにした「myキャラ」作りを実施した。老若男女を問わず、全412点の作品の応募があったほか、この中から10点を投票で選出しキャラデザイン化を実施し、今後の活用に向けた準備が整った。事業としては観光拠点事業に含まれるが、人材育成という面ではかやぶき屋根の修繕にたずさわるボランティアの6名が登録され、多くの構成事業に関わる人材が育ちつつある。</p>
年報の作成	上記の5つの事業の実施概要、整理した資料の目録、製作紙芝居の目録等を所載した「年報」を作成。

## 6 横浜市無形民俗文化遺産の発展と継承活性化事業

公開承認施設である当館を中核館として、「横浜市民俗文化遺産活性化事業実行委員会」を組織し、文化庁からの補助金を受け、横浜市指定の無形民俗文化財の発展・継承・活性化に資する事業を実施した。

項目	事業内容
次世代への継承に向けた横浜市指定・登録文化財の修復事業	<p>1. 横浜市指定無形民俗文化財「廻り地蔵」に使用する「地蔵菩薩像」・厨子の修繕</p> <p>横浜市指定無形民俗文化財の「廻り地蔵」は、仏像を収めた木箱を家づたいに徒歩で廻すという伝統習俗であるため仏像の傷みが激しい。本年度は、保存団体「新羽三谷戸廻り地蔵講（横浜市港北区）」が使用している地蔵菩薩像作品と厨子の修繕を行った。</p>
横浜市指定・登録文化財を支える地域の記録作成事業	<p>1. 横浜市指定無形民俗文化財「廻り地蔵」を支える街のくらし報告書の制作事業</p> <p>本事業では民俗文化遺産を支える地域を対象に民俗調査を実施し、『横浜市指定無形民俗文化財「廻り地蔵」をささえる街のくらし報告書』として年報とあわせて刊行した。本年度の調査対象は修復事業とあわせて「新羽三谷戸廻り地蔵講（横浜市港北区）」とした。</p>

## 7 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、文化財・歴史資料及び展示等に関する情報を提供するために、データの入力等を行い、文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項目	事業内容
収蔵資料等データ入力	<p>図書文献資料等のデータ入力及びインターネット公開を行った。</p> <p>・データ入力件数 4, 477件</p>
映像資料の公開	スタディサロンで映像ビデオを公開した。

文化財情報システムの運用・保守	インターネット等による文化財情報の管理・発信やグループウェアに関わる機器類の保守を行った。
ホームページを利用した博物館情報の発信と市民ニーズの把握	博物館のホームページにより、博物館の展示・催し物・刊行物の広報や、収蔵資料・図書文献資料・市内文化財等の紹介を行った。 <b>アクセス（セッション）数 218,136 件</b>
ツイッターを利用した博物館の情報発信	ツイッターを利用して博物館の展示や催し物の紹介、また体験学習、講座・講演会など、様々な情報を発信した。

## 8 歴史博物館施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

歴史博物館及び野外施設の維持管理・運営を行いました。

### （1）歴史博物館等の維持管理

管理対象施設等	事業内容
歴史博物館	施設の保守管理、補修・修繕、燻蒸庫燻蒸の実施 スタディサロン・歴史劇場の維持管理、講堂、研修室の貸出 主な修繕等：パッケージエアコン更新長寿命化工事（2F研究室・ 情報処理室・体験学習室他、一部未実施）・非常用放送 設備更新長寿命化工事・移動式展示ケース及び警備室ト イレ照明LED化・空冷ヒートポンプチラー修繕 他
歴史博物館野外施設	国指定史跡「大塚・ <sup>さいかちど</sup> 歳勝土遺跡」の維持管理

### （2）講堂・研修室利用の推移

項 目		平成29年度	平成28年度	平成27年度
講 堂	利 用 者 数 (人)	24,726	23,604	21,264
	利 用 件 数 (件)	230	195	196
	うち有料貸出件数 (件)	62	57	34
研 修 室	利 用 者 数 (人)	5,636	8,836	7,853
	利 用 件 数 (件)	214	284	260
	うち有料貸出件数 (件)	115	159	144

※29年度はパッケージエアコン更新工事に伴い、1/17(水)～3/31(土)の間、研修室を休室とした。

### （3）歴史博物館野外施設入場者の推移

項 目		平成29年度	平成28年度	平成27年度
歴 史 博 物 館 野 外 施 設 (人)		57,732	62,155	57,266
内 訳	大 塚 遺 跡 (人)	55,402	58,820	52,104
	工 房 (人)	2,330	3,335	5,162

## 9 歴史博物館収益事業（定款第4条第1項第2号）

### （1）ミュージアムショップ

- ① 勾玉キット、火打石、絵葉書、ミニタオル、企画展図録等を販売した。
- ② 企画展・イベントにあわせた商品をそろえ、開館記念日の特別セールを実施した。

### （2）駐車場

歴史博物館の来館者用駐車場を運営した。

### （3）自動販売機（4台）の設置

施設利用者の利便を図るため、自動販売機を設置した。

## <各事業の推移>

項 目	平成29年度	平成28年度	平成27年度
ミュージアムショップ売上（千円）	8,348	8,957	8,272
駐車場利用台数（台）	5,706	5,896	5,529
駐車場料金収入（千円）	2,344	2,474	2,354
自動販売機手数料収入（千円）	322	313	324

## 事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	資料購入・寄贈による資料収集を行うとともに、マイクロフィルム制作などによる収集活動を着実にいった。収集資料の整理・保管・データ入力を進めました。また、画像資料の有料貸出も継続して行った。 <b>今年度から、資料整理の補助作業を「横浜古文書を読む会」が担っている。</b>	A
調査研究事業	予定どおり実施した。 <b>基礎資料に関する調査研究、テーマ別の調査研究、市民協働の調査研究などを実施し、その成果は報告書として刊行・公開し、企画展にも活用した。</b>	A
常設展事業	「区民デー」の継続や常設展示解説ボランティアの充実を図った。入場者数は、目標の94%で目標には達しなかった。	B
企画普及事業	当初計画した様々な事業は予定通り実施した。 <b>企画展事業は好評で、入場者は6万7000人を超え、目標の115%という成果となった。</b> 市民協働においては、ボランティアが活動の幅を	A

	<p>広げ、集客イベント等で活躍した。学校連携としては、吉田新田の訪問授業・常設展示室吉田新田コーナーの解説・教職員向けの研修など着実に実施してきた。</p>	
<p><b>博物館デビュー支援事業</b></p>	<p>文化庁の補助金を得て、実施してきた本事業は今年度が最終年となる。調査チームを編成しての市内小学校所蔵資料の整理、小学校の歴史資料室の視察・検討会の開催、一般公開のフォーラムの開催、などを実施した。<b>事業の先進性ゆえにマスコミに多く取り上げられ、「学校資料室」をテーマにした学会誌の特集も組まれた。</b></p>	<p>A</p>
<p><b>横浜市無形民俗文化遺産の発展と継承活性化事業</b></p>	<p>文化庁の補助金を得て、昨年、一昨年度に引き続き、横浜市指定の無形民俗文化財の発展・継承・活性化に資する事業を実施した。<b>対象は港北区新羽町の廻り地蔵で、資料の修繕や行事を支える地域の活動を応援することができた。文化財行政の一端を担う事業と自負している。</b></p>	<p>A</p>
<p><b>情報事業</b></p>	<p>館内の端末での情報提供とインターネットでの収蔵資料情報の公開等、情報発信を計画に基づき実施した。<b>SNSによる情報発信も定着化し、インターネットへのアクセス数は 218,136 となり昨年比 112%と増加した。</b></p>	<p>A</p>
<p><b>施設維持事業</b></p>	<p>経年劣化が進んでいる博物館施設、遺跡公園の施設等の維持管理を適切に実施した。今年度は館内の<b>パッケージエアコンの交換工事を実施した。</b></p>	<p>A</p>
<p><b>収益事業</b></p>	<p><b>ミュージアムショップと駐車場の売上げは前年度を下回ったものの、一昨年度程度を確保した。</b></p>	<p>B</p>

### 3 開港資料館事業

開港資料館では主要業務である展示や閲覧に加えて、学校連携事業・地域連携事業、地域の賑わいを創出する事業を積極的に展開しました。学校連携事業では県内の高等学校の社会科クラブの研究発表会（神奈川県高等学校文化連盟事業）に会場を提供し審査員をつとめました。また、東海大学とは共催で、東海大学を会場にしてシンポジウム「日記にみる戊辰戦争」を開催し、財団の専門職が講師をつとめました。地域連携事業としては、馬車道や中華街など地域の商店街が実施するセントラルフェスティバル Y158 の実行委員会に職員を派遣するとともに、ウォークラリーのスタンプポイントとしてイベントに参加しました。

地域の賑わいを創出する事業としては、市役所が主催した緑化フェアに参加し、中庭や裏庭を花で飾るとともに、旧館や赤レンガ倉庫で緑化フェアに関連するパネル展示を開催しました。また、中区役所や商工会議所が主催する横浜開港記念会館建設 100 周年を祝う事業に協力し、シンポに講師を派遣するとともに、横浜開港記念会館を会場にしたパネル展示の監修や記念誌（中区制 90 周年・開港記念会館 100 周年記念事業実行委員会編）の執筆・監修をおこないました。

このほか企画展示では、都発・市史・歴博との共催や連携をおこない、財団各施設が一体となって事業をおこなうことにより、単独で開催するよりも広い視野に立った展示を開催することができました。また、今年度、収集した資料は約 2000 点に達し、総所蔵資料点数は 27 万点を超えました。

#### 1 資料収集保管事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号①）

江戸時代後期から明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料を収集し、収集資料を良好な状態で保存するために資料の保管・修繕を行いました。また、閲覧室での資料公開・コピーサービスにより、資料や研究成果の普及を行いました。

##### （1）資料の収集・管理・公開（H29.4～H30.3）

項目	点数	事業内容
資料の寄贈・寄託	寄贈 8 件 1, 8 2 2 点	主な収集資料：J.C フレザー写真帳・岡野尚文家所蔵文書ほか
資料の購入	3 1 件 1 2 1 点	収集資料：クララ・グロッサ旧蔵スクラップブックほか
古文書のマイクロ化 ほか	1 5 件	主な複製（マイクロ撮影）資料：木村義麿家関係文書ほか
資料の保存処理・修繕	180 件	中性紙封筒への入れ替えおよび資料の修繕
資料の分類・整理	古文書など 約 1 5 0 0 点	収集した歴史資料を保存・公開するため、資料群ごとに分類・整理した。

閲覧室における資料の公開とコピーサービス	閲覧室利用 2, 579人 コピー枚数 25, 860枚	邦字・欧字新聞複製、図書等の開架資料の公開と、文献・古文書等の閉架資料の出納・公開、コピーサービスを行った。
写真資料・画像資料の撮影	撮影件数(18件) 古写真や古記録など	企画展や閲覧公開に供する資料及び収蔵資料の撮影を行った。
複製フィルム等の提供	提供件数589件 1, 746点	市民や企業、他の博物館や公共機関、出版社などへの写真資料の提供を行った。
実物資料の貸出	貸出件数5件	他の博物館(国立西洋美術館・熊本県立美術館ほか)へ実物資料の貸出を行った。

(2) 資料収集内訳 (H29.4~H30.3)

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
行政資料(点)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	1,851 (1,851)
政府資料(点)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	16,137 (16,137)
海外資料(点)	5 (—)	2 (—)	1,008 (—)	— (—)	<b>1,015</b> (—)	15,231 (14,216)
文書・記録(点)	— (1)	8 (3)	806 (34)	— (—)	814 (38)	84,152 (83,338)
新聞資料(点)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	9,946 (9,946)
絵画・写真等(点)	— (—)	<b>5</b> (1)	8 (3)	2 (—)	15 (4)	33,622 (33,607)
コレクション(点)	— (—)	— (3)	— (251)	— (—)	— (254)	51,408 (51,408)
文献資料(点)	116 (264)	— (1)	— (—)	— (—)	116 (265)	116 (57,952)
合 計	121 (265)	15 (8)	1,822 (288)	2 (—)	1,960 (561)	270,415 (268,455)

※( )内は、前年度点数。

(3) 複製フィルム等の提供実績

項 目	平成29年度	平成28年度	平成27年度
出版社(一般書・教科書・雑誌)、放送・テレビ会社、官公庁、横浜市及び横浜市関連機関への提供	589件	616件	580件

(4) 閲覧・資料相談・複写サービス利用状況

項 目	平成29年度	平成28年度	平成27年度
閲覧室利用者数(人)	2,579	2,646	2,863
複写申込件数(件)	1,240	1,385	1,423
複写枚数(枚)	25,860	36,014	32,415
レファレンス件数(件)	2,815	2,803	2,947

(5) 資料の保管

項目	目的・意図 及び 内容・成果
中性紙資料保存封筒作成	劣化する酸性紙保存封筒からの中性紙保存封筒への入れ替え
環境検査	5回/年 実施

(6) 資料保管施設の管理

保管施設	保管資料
開港資料館収蔵庫 (310 m <sup>2</sup> )	文書記録、画像資料、個人文庫、文献等の収蔵と管理を行った。
大黒埠頭倉庫、シルクセンター他	マイクロフィルム、器物資料、文献資料等の収蔵と管理を行った。

2 調査研究事業 (定款第4条第1項第1号①)

江戸時代後期から明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料について調査研究を館外の研究者と協力しておこないました。また、昨年を引き続き、開港資料館・都市発展記念館・市史資料室の3施設合同で、「戦中・戦後期の都市横浜に関する連携研究事業」をおこないました。

(1) 基礎的調査研究

項目	目的・意図 及び 内容・成果
開国・開港期の歴史	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 市内・市外の旧家が所蔵する古文書調査</li> <li>② ブレンワルド日記の翻訳作業</li> <li>③ 都筑区中山家資料の整理業務および同文書の活用計画立案</li> <li>④ 中区開港記念会館100年誌執筆・監修</li> <li>⑤ 緑化フェア実施に際し開港資料館でのパネル展示実施</li> <li>⑥ 高等学校社会科研究発表会との連携事業の実施</li> </ul>
横浜近代欧米関係史	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 企画展「横浜の西洋人社会と日本人-異文化へのとまどい-」企画・実施</li> <li>② 幕末期の日英関係資料の調査分析</li> <li>③ 受贈資料 (C・バスタン旧蔵資料、ブレイクモア旧蔵資料) の整理・手続き</li> <li>④ 特別資料コーナー展「100年前の駐横浜ベルギー総領事」担当および関連出版物の原稿執筆</li> <li>⑤ 「開港のひろば」「中区広報—なか区歴史の散歩道」等執筆</li> <li>⑥ ドン・ブラウン文庫目録のOPAC公開に向けたデータ整備</li> <li>⑦ 外部機関 (東大史料編纂所) とのイギリス外交文書のデータ検索閲覧システム連携事業</li> <li>⑧ ブレンワルド研究会参加</li> <li>⑨ 国際シンポジウムへの参加 (英、イースト・アングリア大学附属セインズベリー日本藝術研究所)</li> <li>⑩ 学芸員実習担当</li> <li>⑪ 「子どもアドベンチャー2018」担当</li> <li>⑫ OPACシステム更新の手続き・実施</li> </ul>

横浜近代文化史	<p>①図書・雑誌・新聞の整理とインターネット公開システム「情報館」の導入とデータの移行、試行と公開。</p> <p>②豊田文庫・洋書の再整理実施。また一般図書についても継続整理実施。</p> <p>③小宮山博史氏所蔵資料の整理。</p> <p>④木村海舟・浩吉関係資料の寄託から寄贈への移行手続き完了。</p> <p>⑤特別資料コーナー「木村喜毅（芥舟）・浩吉関係資料 寄贈記念 木村浩吉と海軍兵学校」8/9(水)～8/31日(木)をミニ展示コーナーで実施。</p> <p>⑥横浜郷土史団体連絡協議会事務局担当。研修会（41～45回）開催、ニュース（41～45号）発行など。</p> <p>⑦平成28年度第4回企画展示「時を超えて・ハマの史跡の物語」展担当（4月終了）</p> <p>⑧平成30年度第1回企画展示「金属活字と明治の横浜」展担当（展示準備実施）</p> <p>⑨「開港のひろば」136・138号執筆</p> <p>⑩中区歴史の散歩道執筆。</p> <p>⑪ブレンワルド研究会参加</p> <p>⑫図書・雑誌の購入、資料整理用の封筒作製など担当</p> <p>⑬委託研究会「横浜活字文化研究会」担当</p> <p>⑭環境調査実施</p> <p>⑮学芸員実習担当</p>
横浜近代アジア関係史	<p>①横浜華僑関係各資料（周ピアノなど）・各種絵葉書、古写真等資料の調査・受け入れ</p> <p>②第2回企画展示「地図にない場所—消えたものから見えてくるハマの近代」</p> <p>③『開港のひろば』136号、137号、139号執筆。「中区歴史の散歩道」執筆</p> <p>④華僑史分野の委託研究会担当</p> <p>⑤地図データベース会議参加</p> <p>⑥学芸員実習担当</p> <p>⑦ブレンワルド研究会参加</p> <p>⑧横浜市立大学および横浜商科大学講座での横浜華僑史関係講義担当</p> <p>⑨『横浜中華会館150記念誌』編集および執筆担当</p> <p>⑩158 セントラルタウンフェスティバル実行委員会、横浜中華街発展会、中華会館など各種地域団体との連携担当</p> <p>⑪国内外のアジア地域学術機関との交流担当（仁川大学、神奈川大学非文字資料研究所）</p> <p>⑫特別資料コーナー展示「幕末明治・横浜犬事情」展示担当</p>
横浜近世・近代社会経済史	<p>①館蔵諸文書等の資料整理</p> <p>②第3回企画展示「開港場横浜の原風景—350年の歴史を探る—」展の企画・実施</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>③ミニ展示「瓦版にみる嘉永7年のペリー来航」実施</li> <li>④次年度第4回展示「横浜浮世絵」準備</li> <li>⑤「開港のひろば」137・138・139号執筆</li> <li>⑥「広報よこはま 南区版」4月～9月号に連載記事「吉田新田の350周年ヒストリー」を執筆。</li> <li>⑦「中区歴史の散歩道」執筆</li> <li>⑧学芸員実習担当</li> <li>⑨郷土史協事務局担当</li> </ul>
歴史情報の集積と研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>①雑誌・新聞の整理とインターネット公開システム「情報館」の導入とデータの移行、試行と公開。</li> <li>②平山花火関係資料調査及び寄贈受入(伊東安子氏)</li> <li>③ミニ展示「横浜の花火140年」展準備・開催</li> <li>④すみだ郷土文化資料館「隅田川の花火」展関連講座講師</li> <li>⑤ミニ展示「横浜のブドウ園とワイン」展準備・開催、『開港ひろば』138号執筆</li> <li>⑥中区広報なか区歴史の散歩道222回「谷戸坂の西洋洗濯屋」(1月号)執筆</li> <li>⑦学芸員実習担当</li> <li>⑧寄贈資料の受入(野村義夫氏)</li> <li>⑨寄贈資料の受入(曾我文宣氏)</li> <li>⑩複製資料利用担当</li> <li>⑪横浜市みなと博物館「江戸へ魚を送れ！」展への資料貸出</li> <li>⑫新規受入雑誌の整理・公開</li> </ul>
横浜近現代政治社会史	<ul style="list-style-type: none"> <li>①都市発展記念館及び市史資料室との連携事業の実施</li> <li>②横浜郷土史団体連絡協議会事務局担当</li> <li>③神奈川県高等学校文化連盟社会科専門部との連携事業の実施</li> <li>④横浜市立大学インターンシップ対応</li> <li>⑤国文学研究資料館アーカイブカレッジ対応</li> <li>⑥学芸員実習担当</li> <li>⑦『開港のひろば』執筆(136・139・140号)</li> <li>⑧「中区歴史の散歩道」執筆(237号)</li> <li>⑨ミニ展示「関東大震災94周年 横浜地方裁判所と大震災」準備・開催</li> <li>⑩吉澤武彦家文書の整理・返却作業</li> <li>⑪横浜近現代史研究会委託事務担当</li> <li>⑫首都圏形成史研究会事務局担当</li> <li>⑬新収蔵資料の収集・整理・公開</li> <li>⑭企画展示「銭湯と横浜」展の企画・実施(歴史博物館との連携事業)</li> <li>⑮企画展示関連事業シンポジウム「銭湯と横浜」、関連講座「綱島温泉の誕生」及び街歩きの担当講師</li> </ul>

	⑩企画展示「富国強兵」展の準備 ⑪中山恒三郎家資料調査・整理 ⑫地方史研究協議会第69回大会（神奈川）実行委員会事務局 ⑬外部保管倉庫管理担当 ⑭マイクロ等複製資料担当 ⑮館蔵資料の貸出対応（日本郵船歴史博物館・千葉県立中央博物館・野田市郷土博物館・大阪城天守閣・埼玉県立歴史と民俗の博物館・八王子市郷土資料館・福井県立歴史博物館）
--	---

（２）調査研究の委託

項 目	目的・内容	今年度の成果目標
横浜近現代史分野の調査研究	（ア）海外・市内外の旧家・機関所蔵資料の調査（２／３年次）	①海外関係資料の調査研究・整理・翻刻 ②中山恒三郎家資料の整理
	（イ）横浜関連資料の整理や翻刻（２／３年次）	①スイス人商人の日記の翻刻
	（ウ）横浜の近現代史に関する研究（２／３年次）	①東京湾・横浜港・河川史に関する総合的研究 ②横浜の活字文化に関する研究 ③旧都筑郡の政治史・経済史・社会史に関する総合的研究
横浜国際関係史分野の調査研究	（ア）横浜華僑教育史の調査研究（２／３年次）	①オーラルヒストリー調査の実施 ②横浜華僑教育関係史料の所在調査

（３）都発・市史との昭和期の横浜の歴史に関する共同プロジェクト

近現代歴史資料課に属する開港・都発・市史の３施設が合同で開催する会合・研究会では昭和期の横浜の歴史に関する資料の調査や分析、これまでの研究史のまとめなどをおこないました。また、どのように当該資料を活用して展示・講演会などをおこなっていくのかを検討しました。さらに、３つの施設が所蔵する地図資料の統一的なデータベース化にも取り組みました。この成果は順次、開港・都発・市史の３施設で開催する企画展などで公開します。

（４）研究紀要の発行：平成２９年度は財政状況を改善するため、研究紀要を発行しなかった。

**３ 常設展事業（定款第４条第１項第１号②）**

常設展示室において、資料・展示ケースなどの保守点検を実施し、円滑な展示室運営を行いました。

(1) 常設展示室観覧者の推移 (目標数 61,000 人)

	有料入館者 (人)				無料入館者 (人)	合計 (人)	前年比	開館 日数	1日平均 入館者(人)
	一般	小中	観覧室	計					
29年度	31,304	6,110	941	38,355	28,995	67,350	123.5%	303日	222
28年度	25,930	6,041	1,133	33,104	21,395	54,499	95.4%	304日	179
27年度	27,108	5,593	1,116	33,817	23,257	57,074	125.1%	304日	187

(2) 新収蔵資料や新発見資料を紹介する「ミニ展示」の設置

常設展示室の一角や旧館1階ホールを活用して、新収蔵資料や新発見資料の紹介コーナーを設けたり、ミニパネル展示をおこなったりして、調査研究の成果をいち早く紹介した。

項目	内容・成果
資料紹介	第84回 4/15～6/4 「第33回全国緑化よこはまフェア協賛 川和の菊と『松林甫』」 第85回 6/6～6/30 「瓦版にみる嘉永7年のペリー来航」 第86回 7/1～8/8 「横浜の花火140年」 第87回 8/9～8/31 「木村喜毅(芥舟)・浩吉関係資料寄贈記念木村浩吉と海軍兵学校」 第88回 9/1～9/30 「関東大震災94周年 横浜地方裁判所の大震災」 第89回 10/3～10/29 「へボンの和訳聖書」 第90回 11/1～11/30 「横浜のブドウ園とワイン」 第91回 1/4～2/28 「幕末明治・横浜犬事情」 第92回 3/1～5/6 「100年前の駐横浜ベルギー総領事」
開港(開館)記念日に 関する事業	ミュージアムショップセールを実施し、グッズ販売を促進した。 開港記念日に子供向けのクイズを作成したワークショップを開催した。

(3) 旧館ホール・中庭展示

- ・無料展示スペースである旧館ホール・中庭展示の見学者数の集計結果

旧館ホール見学者：66,327人

中庭展示見学者：100,479人

4 企画普及事業 (定款第4条第1項第1号②)

江戸時代後期から明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料の研究成果を企画展開催等で発表しました。また、横浜郷土史団体連絡協議会を中心に市民との協働を積極的に進め、研修会の実施等を行いました。また、年間で10日間に開館時間を午後7時まで延長し、利用者の便宜をはかりました。

(1) 企画展の実施

企画展名/開催期間	入館者数	目的・意図 及び 内容・成果
企画展示 「時を超えて・ハマの史跡の物語」 H29. 2. 1(水)～4. 23(日) 会期 71 日 (年度中会期 20 日)	3,908 人  *会期中の 総入館者数 11,006 人 (目標数 11,000 人)	当館開館 35 周年を記念し開催した。 本展示では、横浜市が初めて行なった史跡の選定を取りあげ、横浜市の史跡選定の歴史を、主に当館が所蔵する郷土史家関係資料で振り返った。主に郷土史家らにより行われた史跡の選定は、郷土に残された歴史的遺跡の意義を明らかにし、歴史を記録・継続しようとする強い思いが込められていることを明らかにした。
企画展示 「横浜・地図にない場所ー消えたもの見えてくる、ハマの近代ー」 H29. 4. 26(水)～H29. 7. 17(月・祝) 会期 72 日	29,049 人 (目標数 18,100 人) 1 日あたり 403 人	現在の地図にはない場所の消えた理由を紐解きながら、近代横浜の歩みをたどる地図企画。 <b>開港・都発・市史の3施設連携地図展示</b> 。Y158(5月27日・28日)や開館・開港記念日(6月2日)という無料開館日の設定、横浜緑化フェアの効果もあり、目標値を60%上回る2万9千人を超える入場者数となった。アンケート結果からは、多くの来館者が満足したと回答しており、内容的にも非常に好評であった。
企画展示 「横浜の西洋人社会と日本人ー異文化へのとまどいー」 H29. 7. 20(木)～H29. 10. 22(日) 会期 82 日	13,089 人 (目標数 16,000 人) 1 日あたり 160 人	明治期に横浜外国人居留地に暮らしたドイツ商人の妻の貼込帳(スクラップブック)を初公開したのをはじめ、当館が所蔵・保管する居留西洋人がのこした手紙や回想録、写真帳、スケッチ帳などのオリジナル資料を中心に約120点の資料を展示し、幕末から明治期後半にかけて横浜外国人居留地に暮らした西洋人の生活と、生活を通して彼らが描いたさまざまな日本及び日本人像を紹介した。
企画展示 「開港場横浜の原風景ー350年の歴史を探るー」 H29. 10. 25(水)～H30. 1. 28(日) 会期 77 日	11,584 人 (目標数 14,000 人) 1 日あたり 150 人	大岡川・帷子川の河口部における新田開発の進展と、神奈川湊及びその荷揚場である神奈川宿・芝生村・保土ヶ谷宿における地域経済の展開が、開港場を横浜に設定するための大きな要因となったことを紹介した。
企画展示 「横浜と銭湯ー“ゆ”をめぐる人びとー」 H30. 1. 31(水)～H30. 4. 22(日) 会期 71 日 (年度中会期 52 日)	9,681 人 *会期中の 総入館者数 13,006 人 (目標数 11,000 人) 1 日あたり 183 人	<b>横浜市歴史博物館との共催企画</b> 。本展示では、銭湯や温泉をキーワードに、“ゆ”をめぐる人びとの動きに焦点を当てつつ、近代横浜の都市形成史をたどった。市民生活と密接に関わっていた銭湯の存在を通じて、幕末維新时期から第2次世界大戦後に至る横浜の近現代史を描いた。新聞メディアを中心に反響も大きく、関連事業の参加者からも好評を得た。

(2) 講座の開催

講座名称/開催日	参加者数	事業内容
第1回企画展示 連続講座 「横浜・地図三昧」  展示解説	講座合計 205名	6/3(土)「横浜のさまざまな地図とその系譜」 会場：横浜開港資料館講堂 講師：岡田直(横浜都市発展記念館) 74名  6/10(土)「横浜・地図にない場所」 会場：横浜開港資料館講堂 講師：伊藤泉美 主任調査研究員 67名  6/17(土)「旧公図と火災保険図」 会場：横浜開港資料館講堂 講師：百瀬敏夫(横浜市史資料室) 64名  6/7(金) 展示解説(夜間、20名)
第2回企画展示 展示解説	解説合計 32名	8/25(金) 展示解説(夜間、20人) 9/22(金) 展示解説(夜間、12人)
第3回企画展示 関連講座	講座合計 153名	11/5(日)「近代都市横浜の原点ー横浜村と吉田新田ー」 (43名) 12/9(土)「横浜道が通る場所ー帷子川河口部の新田開発ー」 (51名)  1/13(土)「神奈川湊とその地域圏」(59名) いずれも 会場：横浜開港資料館講堂 講師：斉藤司 主任調査研究員
第4回企画展示 シンポジウム 関連講座 史跡散策 展示解説	シンポ合計 56人 講座合計 73人 散策合計 17人 解説合計 72人	2/10(土) 展示記念シンポジウム「銭湯と横浜」 吉田律人(横浜開港資料館) 「横浜銭湯の近代史」 羽毛田智幸(横浜市歴史博物館) 「戦後横浜の銭湯のあゆみ」 山口拓(福島県立博物館) 「銭湯で働く人々ー浴場経営者のライフヒストリーー」 コメント：上山和雄(横浜開港資料館) 司会：西川武臣(横浜開港資料館) 3/17(土) 関連講座「綱島温泉の誕生」 講師：横浜開港資料館 調査研究員 吉田律人 4/6(金) 史跡散策「京浜の『奥座敷』・綱島温泉を歩く」 講師：横浜開港資料館 調査研究員 吉田律人 2/3(土), 2/23(金), 3/23(金), 4/14(土) 展示解説



第 1 回企画展示連続講座



第 3 回企画展示関連講座



第 4 回企画展示シンポジウム

(3) 各種出版物の作成・編集

出版書籍名	作成部数	頒布価額	事業内容
「横浜・地図にない場所」展示ガイド	1500 部	400 円+税	A4 判、16 頁。横浜開港資料館編
「開港場横浜の原風景－350 年の歴史を探る」展示ガイド	1500 部	400 円+税	A4 判、16 頁。横浜開港資料館編
「銭湯と横浜」図録	2000 部	1,204 円+税	B5 判、96 頁。横浜開港資料館・横浜市歴史博物館編

(4) 市民などとの協働事業の実施

横浜の郷土史に関心の深い市民団体相互の交流促進及び開港資料館・当財団と各団体との協働事業を推進することを目的に、平成 18 年度末に設立した横浜郷土史団体連絡協議会との共催事業として、横浜市歴史博物館と共同して会報の作成や講座等を行いました（平成 29 年度末現在、加盟 49 団体 賛助会員 1 団体）。また、横浜セントラルタウンフェスティバル Y158 へ参加し、当日、無料開館したほかイベントを行いました。一方、28 年度に始まった高等学校との連携事業については、今後も継続する予定です。

項目	事業内容等
横浜郷土史団体連絡協議会との共催事業	① 総会・研修会・記念講演会の実施 大会 4/22(土) 研修会 第 45 回 6/23 (金) 第 46 回 8/4 (金) 第 47 回 11/10 (金) 第 48 回 2/16(金) 全 4 回 参加者 計 126 名 記念講演会「軍港横須賀の軍事遺跡－「町おこし」の視点から・・・入門編とご案内」4/22 (土) 参加者 34 名 ② 横浜郷土史団体連絡協議会 News の発行 45 号～48 号 ③ 特別講座「地域で近現代史と取り組む－自治体史編さんの経験から－」を実施 3/16 (金) 参加者 31 名 ④ 会報 11 号を刊行
横浜セントラルタウンフェスティバル Y158 への参加や都筑区中山家での同家	① 横浜開港を記念し、関内周辺の商店街組織（馬車道商店街・関内まちづくり振興会、山下公園通り会、横浜中華

資料内覧会の開催	<p>街発展会・元町 SS 回) と地元マスコミが主催で行われる Y158 イベントに参加した。</p> <p>② 5月27日(土)28日(日)に開かれた。2日間の無料入館を実施、またウォークラリーのスタンプポイントとなった。</p> <p>③ 来館者は2日間合計14,657人(内入館者は8,447人)となり、昨年のY157時の来館者数を大幅に上回った。多くの来館者に横浜の歴史に親しむ機会を提供できた。</p> <p>④ 4月30日に中山家において地域の方々およびマスコミに対して同家所蔵資料の内覧会を開催し、650人の来場があった。</p>
全国高等学校社会科研究発表大会および研修への協力ほか	<p>高等学校社会科クラブの研究発表会に審査員として参加したほか、研修会開催に協力した。東海大学との共催シンポ「日記にみる戊辰戦争」を東海大学で開催</p>



Y158 無料開館 展示室の様子



6/2 ワークショップ

(5) 新聞社各社への記事連載への協力

項 目	事 業 内 容 等
神奈川新聞ほか新聞各社への記事への取材協力	朝日新聞のペリー来航関係特集記事の取材協力および監修ほか。

(6) 実習・研修の受け入れ

項 目	事 業 内 容
博物館館務実習の受け入れとインターンシップなど	<p>①博物館学芸員資格取得を目指す「博物館実習」受講生を受け入れ、指導を行った。 期間：8/22(火)～8/27(日)、受入数：12人</p> <p>②「子どもアドベンチャー2018」(横浜市主催)に参加 「私も学芸員！地図を整理」参加者数：7人(及び保護者6人)</p>

(7) 広報紙の発行、一般広報等

項 目	事 業 内 容
館報「開港のひろば」発行	企画展示・収蔵資料・館活動の紹介 第136号～139号(年4)

	回) 年間合計 51,000 部
リーフレット類作成	横浜開港資料館案内パンフレット(小中学生用)3,000 部 横浜開港資料館案内パンフレット(一般用)15,000 部 横浜開港資料館催し物案内、年 2 回
その他広報	①インターネットによる広報 ②メールニュースによる催し物などの情報発信 ③市営地下鉄関内駅構内の広報案内看板利用 鉄道各駅 PR ボックスへのチラシ掲出 ④みなとみらい線日本大通り駅構内のポスター掲示 ⑤市内類似観光施設・主要ホテル・観光案内所等への広報印刷物の配布 ⑥区連会掲示板などへのチラシ掲出 ⑦一般新聞・タウン情報誌、旅行情報誌等への随時記事掲載 ⑧TV、ラジオ、FM放送、CATV等の放送メディア利用 ⑨企画展後援新聞での連載・市広報誌等への記事掲載

(8) 横浜市役所などとの連携事業

項 目	事 業 内 容 等
横浜市役所などとの連携事業	「広報よこはま 中区版」に連載記事「なか区歴史の散歩道」を都市発展記念館職員と分担して執筆。「広報よこはま 南区版」4月～9月号に連載記事「吉田新田の350周年ヒストリー」を執筆。緑化フェアに協力して旧館でパネル展示開催。4/18 緑化フェアシンポに講師派遣。中区の開港記念会館 100 周年記念誌への執筆・監修、7/1 同中区主催のシンポに講師派遣。7/28 横浜商工会議所主催シンポに講師派遣。
市立小学校社会科研究会およびアイカレッジへの講師派遣	5/7 中学校社会科研究会講師派遣、6/14 神奈川区小学校社会科研究会神奈川宿巡見に講師を派遣(40名参加)、8/18 西区小学校社会科研究会講師派遣 11/3 アイカレッジへ講師派遣(受講者 136名)

5 情報事業(定款第4条第1項第1号②)

インターネット等を利用して、文化財・歴史資料及び展示等に関する情報を提供するためにデータの入力等を行い文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項 目	事 業 内 容
インターネットによる情報公開	展示・催し物・刊行物の広報や、収蔵資料の紹介を随時、行った。また、OPAC システムを更新し、所蔵図書に加えて新聞・雑誌も検索可能とし、ウェブ上での検索対象数を大幅に増やした。「開港のひろば」の更新を随時、おこなった。 ・HPアクセス件数 合計 118,520 件

メールニュースの配信	「横浜開港資料館メールニュース」を第 143 号～第 154 号(計 12 回)、およそ 1,100 名の登録者に配信した。
------------	--

## 6 開港資料館施設維持事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号③）

開港資料館の維持管理及び運営を行いました。

管理対象施設	事業内容・所在地など
開港資料館	資料の保管・管理、資料館の施設維持・管理を適切に実施した。

## 7 開港資料館収益事業（定款第 4 条第 1 項第 2 号）

(1) ミュージアムショップの経営

- ① 絵はがき、バンダナ、ミニタオル、関連書籍等を販売した。
- ② 開港（開館）記念日にセールを実施した。

(2) 自動販売機（1 台）の設置

施設利用者の利便を図るため、各館に自動販売機を設置しました。

(3) 喫茶室の委託

来館者サービスとして附属棟において、喫茶室の営業を実施した。

店名：Au jardin de Perry（ペリーの庭で）

<各事業の推移>

(千円)

項目	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度
ミュージアムショップ売上	4, 811	4, 112	5, 410
自動販売機手数料収入	112	122	101
喫茶室委託料収入	1, 818	1, 920	1, 651

### 事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	寄贈などによって 1960 点の資料を受け入れた。29 年度末の所蔵資料点数は 27 万点を超え、収蔵資料の充実をはかることができた。閲覧室の利用者数は約 2 千 5 百人で、レファレンス件数（電話と来館による問い合わせ）は 2 千 8 百件を超えた。	A
調査研究事業	調査研究員の研究事業および外部研究者に委託した調査研究活動は順調で、その成果を展示・講座・出版で公開した。研究の成果は新聞・テレビなどで多数取り上げられた。また、都発・市史との共同研究も順調で、研究	S

	成果を各施設で展示公開することができた。	
常設展事業	新収・新発見資料を紹介する「ミニ展示」と記念ホールでの展示を9回にわたって開催した。常設展の大幅なリニューアルが難しい現状でさまざまなテーマのミニ展示をおこなうことができた。	B
企画普及事業	入館者数は約6万7千人を超えた。昨年度に比較して1万3千人増加し目標の113%であった。Y158や開港記念日などの無料入館日に多くの入館者があり、今後も施設の知名度をあげるべく、地域のイベントなどに積極的に協力していく予定である。	A
情報事業	HPのアクセス数は約11万8千件で、ほぼ横ばいであった。マスコミへの情報発信も順調で新聞への掲載も多い。	A
施設維持事業	資料の保管・管理、資料館の施設維持・管理を適切に実施した。	B
収益事業	開港記念日にセールを行い、売上の増加を図るとともに、在庫の販売強化につとめた。	B

#### 4 都市発展記念館事業

都市発展記念館では、29年度も財団の諸施設、市役所・区役所、企業などと連携した事業を積極的におこないました。財団諸施設との連携事業としては、企画展「ようこそ！横浜地図ワールドへ」を開催しましたが、この展示は市史・開港との共同研究会の成果を公開したもので、展示も3施設でおこないました。また、市役所との連携事業としては、緑化フェア開催に連携して、1階ギャラリーでパネル展示「西洋公園の誕生」を開催しました。さらに、**中区役所が実施する横浜開港記念会館100周年事業に協力し、記念誌『ジャックの塔 100年物語』の監修・執筆を開港・市史とともに**おこないました。企業との連携では、京急電鉄120周年記念ミニ展示を開催しました。

これに加えて都市発展記念館では従来から昭和期の横浜市の都市政策を紹介する企画展を開催してきましたが、29年度は「みなとみらい地区」の成立過程を紹介する展示を開催しました。また**横浜市の職員を対象とした同展示の関連講座と見学会を開き、60名の参加を得ました。**今後、こうした形での横浜市職員への研修についても実施に向けて模索していきたいと考えています。さらに、専門職による月1回の昭和期の横浜をテーマにした講座（月イチ講座）も安定的に受講者を得られるようになったほか、ユ一文との共催で開催している夏祭りや開館祭も多くの来場者を集めました。

## 1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

横浜の都市形成、生活文化の歴史に関する資料を、購入・複製・マイクロ撮影等により収集し、分類・整理するとともに、良好な状態で保管するため、資料の修繕・燻蒸や定期的な環境調査を行いました。

### （1）資料収集

項目	点数	事業内容
資料の寄贈・寄託	寄贈19件 856点 寄託0件 0点	主な収集資料：小島武雄氏従軍関係資料、吉川歳雄氏従軍関係資料、日本貿易博覧会記念写真、小林祥展氏旧蔵相模鉄道関係コレクション、横浜港浚渫区域計画図ほか
資料の購入	18件 75点	主な収集資料：戸塚分譲地案内、横浜復興都市計画図昭和三十年国勢調査報告、首都圏整備委員会報告1、東京近郊電車案内、ヨコハマ（横浜観光案内パンフレット）ほか
資料修繕	0件	主な修繕資料：なし
資料の複製収集	3件 14点	主な複製資料：横浜市将来計画に関する基礎調査報告書、都心臨海部総合整備計画調査報告書ほか
資料のデジタル化	3点	主な資料：旧神奈川ニュース映画協会制作映像（短辺映画3点）
複製資料の提供	43件 130点	他の博物館や公共機関、出版社、個人などへ所蔵資料を画像で提供した。
資料の特別利用	1件 1点	調査研究目的による所蔵資料の原資料での特別利用に対応した。
資料の貸出	4件 14点	他の博物館施設での展覧会に当館所蔵資料を貸し出した。

### （2）資料収集実績（H28.4～H29.3）

区分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
遺物	- (-)	- (-)	19 (1)	- (-)	19 (1)	1,576 (1,557)
図書	67 (23)	14 (-)	11 (5)	- (1)	92 (29)	2,322 (2,230)
新聞雑誌	- (1)	- (-)	25 (2)	- (-)	25 (3)	2,172 (2,147)
文書	- (39)	- (-)	202 (179)	- (-)	202 (218)	4,088 (3,886)
紙票類	6 (-)	- (-)	470 (2)	- (-)	476 (2)	5,243 (4,767)
写真	- (-)	- (-)	22 (2)	- (-)	22 (2)	18,987 (18,965)
絵葉書	- (-)	- (-)	32 (9)	- (-)	32 (9)	2,496 (2,464)

地図	4 (17)	- (-)	4 (2)	- (-)	8 (19)	730 (722)
図面	- (1)	- (-)	1 (-)	- (-)	1 (1)	941 (940)
絵画	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	2 (2)
映像	- (1)	- (-)	- (-)	- (-)	- (1)	55 (55)
録音資料	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	171 (171)
電子資料	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	12 (12)
合 計	77 (82)	14 (-)	786 (202)	- (1)	877 (285)	38,795 (37,918)

※（ ）内は、前年度点数。

### (3) 資料の保存・管理

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
保存燻蒸処理	未燻蒸資料の一部について、ユーラシア文化館と共同で外部倉庫での資料燻蒸を実施した。また、小型、少量の資料については、脱酸素剤を用いた無酸素法により適宜資料の殺虫処理をおこなった。
環境調査	虫菌による被害を未然に防ぎ、大気・塵埃・光線等の影響を最小限に抑えるため、年6回の環境調査をユーラシア文化館と共同で実施した。

### (4) 資料保管施設

保管施設	保 管 資 料
都市発展記念館・ユーラシア文化館収蔵庫 (200㎡)	図書、文書、紙票類、地図、図面、出土遺物などを収蔵
外部倉庫 (子安台)	大型家具 (昭和初期の置時計・大テーブル他) などを収蔵
外部倉庫 (大黒ふ頭)	麻真田関係資料、映像フィルム、未整理資料などを収蔵

## 2 調査研究事業 (定款第4条第1項第1号①)

「都市形成」「市民の暮らし」「ヨコハマ文化」の3つのテーマに即して、資料調査・研究を行いました。また**開港資料館・市史資料室・歴史博物館との連携研究事業を進めました。**

### (1) 基礎的調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
-----	----------------

横浜都市形成史 (2/3年次)	【交通】「長谷川弘和氏鉄道関係資料」のうち、紙票類（神奈川県内の国鉄・私鉄および横浜市交通局などの路線図・広報印刷物・切符等）の整理を引き続き進めた。
	【都市計画】飛鳥田市政期に進められた六大事業、とくに都心臨海部整備事業に関する委託調査報告書の所在調査を行い、マイクロフィルム撮影により複製を収集した。成果の一部は、企画展「みなとみらいの誕生」で公開したほか、資料紹介として『横浜都市発展記念館紀要』第14号で発表した。
	【近代遺跡】これまで近代遺跡調査の過程で収蔵してきた横浜市域の近代考古資料について、近年の調査報告と資料一覧、および横浜の赤煉瓦に関する論文を収録した調査報告書『横浜の近代考古資料』を発行した。
横浜都市経済・産業史 (2/3年次)	引き続き過去の商業統計調査類（国・神奈川県・横浜市・他）の作成状況と所在先を調査し、一部データを収集し分析した。その結果を「戦中・戦後期の都市横浜に関する連携研究事業」定例会で報告した。
横浜市政史／都市生活・文化史 (2/3年次)	戦後横浜の民間社会事業団体が所蔵する資料を調査し、関係者に対する聞き取り調査もあわせて行った。また、戦後占領期の横浜の街並みと市民生活を撮影した奥村泰宏、常盤とよ子夫妻の写真資料を整理し、関連資料の調査をあわせて行い、その結果を「戦中・戦後期の都市横浜に関する連携研究事業」定例会で報告した。

(2) 連携研究事業

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
戦中・戦後期の都市横浜に関する連携研究	<p>戦争の時代から戦災復興を経て、高度経済成長への至る昭和期横浜の歴史を多角的に明らかにする調査研究事業を、市史資料室・開港資料館と連携して実施した。今年度は9回の定例会を開催し、参加者（うち2回は外部講師）が下記のテーマで報告を行った。また基礎作業として、『広報よこはま』記事検索用目録の入力作業を行った。</p> <p>①横浜ドックからみなとみらいへ／②横浜の旧日本軍施設／③横浜市域の「商業地図」作成の試みとその考察／④村落からみた郊外の市街地形成を歴史的に問う意義と方法（外部講師）／⑤大正末～昭和前期の州崎青年団／⑥「混血孤児」誕生の歴史的背景／⑦神奈川県立歴史博物館所蔵の近現代資料について（外部講師）／⑧東京浴場組合の結成と入浴料問題／⑨昭和40年代における横浜駅東口開発</p> <p><b>*開港資料館・市史資料室との連携研究事業</b></p>

<p>地図データベース作成に関する連携研究（横浜を中心とする「地図データベース」活用に関する調査研究事業）（2／3年次）</p>	<p>当館及び開港資料館、市史資料室が所蔵する地図資料を横断的に検索ができるよう整理・目録化を図る事業である。三施設の既存の地図データを統合して母体となるデータベースを作成し、各施設で所蔵する地図資料を順次調査してデータベースの拡充を進めた。その成果は三施設の連携展示「横浜・地図三昧」（当館「ようこそ！横浜地図ワールドへ」、開港資料館「横浜・地図にない場所」、市史資料室「昭和横浜の構想図・完成予想図」）において活用した。</p> <p><b>*開港資料館・市史資料室との連携研究事業</b></p>
<p>昭和期の横浜の都市生活に関する調査研究（2／3年次）</p>	<p>歴史博物館と連携し、磯子区の時計店に勤務していた下平政熙氏の直筆日記（当館蔵）の昭和12年～14年分をもとに、昭和戦中期横浜の都市生活の具体的様相について検討し、紀要第14号で「昭和中期横浜の都市生活誌（上）－横浜市磯子区の下平政熙氏の日記から（2）」として報告した。</p> <p><b>*歴史博物館との連携研究事業</b></p>

### （3）資料の調査整理

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
<p>資料の整理・目録作成</p>	<p>調査研究で収集した資料・データなどの整理・目録作成を行った。 主な整理資料：吉川歳雄氏従軍関係資料、小島武雄氏従軍関係資料、富濱利郎家資料</p>
<p>共同資料調査</p>	<p>都筑区川和町の旧家である中山恒三郎家資料について、開港資料館と共同で資料整理を進めた。</p> <p><b>*開港資料館・歴史博物館との連携事業</b></p>

### （4）研究紀要の発行

書名	発行部数	目的・意図 及び 内容・成果
<p>横浜都市発展記念館 紀要 第14号</p>	<p>700部</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和中期横浜の都市生活誌（上）－横浜市磯子区の下平政熙氏の日記から（2）昭和12～14年</li> <li>・資料紹介『横浜市将来計画に関する基礎調査報告書』－環境開発センターと六大事業－</li> <li>・戦争捕虜となった横浜市民の記録－吉川歳雄氏、小島武雄氏従軍関係資料紹介－</li> </ul>

## 3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

常設展示室の維持管理を行うとともに、「常設展示室コーナー展」として話題性のある資料や新収蔵資料、企画展関連資料による展示を定期的に更新し、集客と来館者サービスに努めました。

(1) 常設展示に関する実施事業

項 目	事 業 内 容
展示資料の更新	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員研修や小学校団体見学向けに、コーナー「吉田新田その後」を常設的に設置した。</li> <li>・ 展示ケースの新調にあわせて「市民の暮らし」コーナーの家電製品などの展示資料を更新した。</li> <li>・ 博物館実習の一環として、実習生による収蔵資料紹介コーナー「絵はがきでめぐる関内歴史散歩」を設置した。 (9/7～11/3)</li> </ul>
コーナー展の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 衛生兵となった横浜市民の記録 8/5(土)～10/9(月) 横浜から陸軍衛生兵として中国大陸に出征し、戦後ソ連軍に抑留された小島武雄氏の従軍関係資料の寄贈を受けた事を期に、小島氏の戦争体験を伝える資料を紹介した。</li> <li>・ 京急電鉄創立120周年記念ミニ展示 「京浜電気鉄道と湘南電気鉄道」 3/21(水)～開催中 次年度企画展「伸びる鉄道、広がる道路」に先立ち、関連展示として、京浜急行電鉄株式会社の協力を得て、同社創立120周年記念のミニ展示を開催した。</li> </ul>
映像機器の更新	「ヨコハマ文化」ゾーンの映像装置のアンプ1台を更新した。

(2) 常設展示観覧者の推移(目標数48,000人)

	有料入館者(人)			無料入館者(人)	合計(人)	前年比	開館日数	1日平均入館者(人)
	一般	小中	計					
29年度	874	664	1,538	33,811	35,349	92%	307日	115
28年度	970	872	1,842	36,555	38,397	111.7%	307日	124
27年度	1,090	859	1,949	32,405	34,354	82%	308日	111

4 企画普及事業(定款第4条第1項第1号②)

昭和期を中心とした横浜の歴史をより身近で興味深く感じてもらえるよう、またより多角的な視点から紹介できるよう、展覧会をはじめ、講座や各種イベントの開催、出版等の事業を開催しました。また、より多くの方に当館へ足を運んでいただけるよう、年11回の夜間開館日を設けて午後7時まで開館時間を延長しました。

昨年度に引き続き、小学校団体の受け入れや市民ボランティアの活用、ユーラシア文化館や開港資料館・市史資料室との連携、外部機関との協力に力を入れることで、幅広い事業展開を実現しました。

(1) 企画展の実施

展示名／開催期間	観覧料	入館者数	目的・内容
<p>企画展「ようこそ！横浜 地図ワールドへ」 平成 29 年 4 月 22 日(土) ～7 月 2 日(日) 会期 62 日</p>	<p>一般 300円 小・中 150円</p>	<p>6,652人 (目標数 7,500人)</p>	<p>まずさまざまな地図を紹介し、次に「横浜」の名を付した地図を時代順に集成して都市横浜の発展のあゆみをたどった。さらに、広い市域を区分する全 18 区について、各区のすがたを地図でとらえながら横浜の詳細な地理をさぐった。地図を通じて横浜の歴史と地理への理解の深化をはかった。</p> <p>■展示構成 第 1 章「さまざまな地図とその系譜」／第 2 章『横浜地図』と都市横浜／第 3 章「地図でさぐる横浜全 18 区」</p> <p>■展示資料＝計約 150 点 【施設連携による関連事業】 ■連携展示「YOKOHAMA 地図三昧(ざんまい)」 開港資料館企画展「横浜・地図にない場所」(4/26～7/17) および市史資料室展示会「昭和横浜の構想図・完成予想図」(7/15～9/10) と連携し、共通のロゴマークを作成した。</p> <p>■連続講座「横浜地図三昧」 全 3 回(6/3・6/10・6/17)、会場＝開港資料館講堂、受講料＝1,500 円、参加者＝74 名</p> <p>■複製地図の制作販売 ①「新鑄横浜全図 随時改刻」②「横浜真景一覽図絵」③「横浜名所案内図絵 市街電車案内」④「大日本職業別明細地図 横浜市中区」</p> <p>【当館における関連事業】 ■展示図録の編集・発行 体裁＝A4 判横長・並製・96 頁(全カラー) 販売価格＝1,600 円(税抜)、会期中売上げ＝442 部</p> <p>■展示担当による展示解説 計 4 回(4/29・5/5 夜・5/27 夜・7/1) 参加者＝27 名・18 名・48 名・53 名(日程順)</p> <p>■ワークショップ「地図で遊ぼう」 会期中の土・日曜日および祝日に実施</p>

<p>企画展「ウォーターフロント・シティ横浜 みなとみらいの誕生」 平成 29 年 10 月 7 日 (土)～平成 30 年 1 月 8 日 (月・祝) 会期 75 日</p>	<p>一般 300円 小・中 150円</p>	<p>8,856人 (目標数 8,000人)</p>	<p>本展示では飛鳥田市政期の六大事業のひとつである都心臨海部整備事業に焦点をあて、明治期の横浜船渠の設立に始まり、平成の横浜ランドマークタワー建設にいたるまでの現在の「みなとみらい 21 地区」の成立過程を紹介した。</p> <p>【関連事業】</p> <p>①展示図録の編集・発行 定価：1,000円(税抜)、売上：305冊</p> <p>②展示担当による展示解説 10/14(土) 5名、11/3(金・祝) 15名、12/23(土・祝) 18名、1/6(土) 43名</p> <p>③連続講演会(全2回) 参加者：計63人 11/23(木・祝)「みなとみらいの都市デザイン」 12/2(土)「横浜ランドマークタワーとドックヤードガーデン」</p> <p>④歴史クルーズ「海から見る《みなとみらい》」 11/1(水)、11/5(日) 参加者：計19名</p> <p>⑤関連パネル展「空から見る《みなとみらい》」 会場：1階ギャラリー</p> <p>⑥ワークショップ「みなとみらい今昔 オリジナル絵葉書を作ろう！」 会期中の毎週土日・祝日に開催</p>
<p>次年度企画展準備</p>			<p>次年度開催予定の企画展「伸びる鉄道、広がる道路」「奥村泰宏、常盤とよ子写真展(仮)」に向けて資料調査を実施した。</p>



展示解説



企画展関連歴史クルーズ

(2) 企画展示室観覧者の推移 (目標数15,500人)

	有料入館者 (人)	無料入館者 (人)	合計 (人)	前年比	開館日数	1日平均 入館者 (人)
29年度	4,215	11,293	<b>15,508</b>	87.1%	137	113
28年度	3,713	14,092	<b>17,805</b>	132.2%	136	131
27年度	3,178	10,288	13,466	74.3%	115	117

(3) 普及啓発事業・集客イベント

事業名称	参加者数	事業内容
全国都市緑化よこはまフェア 関連パネル展「西洋公園の誕生」 H29.4.15(土)～6.4(日)		全国都市緑化よこはまフェアの開催に関連して、明治以降、横浜をはじめ国内の諸都市に誕生した西洋公園について古写真や絵葉書をもとに紹介した。 会場：1階ギャラリー
開港記念日 H29.6.2(金)	1,848人	市内の小中学校が休みとなる6月2日の開港記念日を無料開館日とし、通常の企画展関連ワークショップに加えて、小学生向けのワークショップを開催した。また夜7時まで開館時間を延長した。 活動支援ボランティアによる支援(6人)
夏祭りの開催 H29.8.11(金・祝)	1,152人	ユーラシア文化館と共催。無料開館および夜7時まで開館時間を延長した。 建物トワイライトツアー、民族衣装試着体験、なつかしの街頭紙芝居、牛乳パックで作ろうスクリー船、大道芸、缶バッジ制作など。 活動支援ボランティアによる支援(17人)
「子どもアドベンチャー2017」への参加 H29.8.18(金)	11人	市教育委員会が主催する子ども向け夏休み企画「子どもアドベンチャー2017」に参加。市内小中学生を対象に「一日まるごと博物館」と題して、展示解説体験や出土煉瓦の水洗い、受付体験、バックヤードツアーを実施した。
月イチ講座の開催	98人	1階ギャラリーを活用した月1回の定例の講座を、ユーラシア文化館と共同で開催した。 第4回「飛鳥田市政期の六大事業構想」(7/8、26人) 第5回「戦後横浜の諸相(3) 昭和天皇と戦後の横浜」(8/19、13人) 第6回「映像で見る横浜の高度成長(その1)」(9/16、16人) 第10回「映像で見る横浜の高度成長(その2)」(1/13、17人) 第11回「戦後横浜の諸相(4) 引揚者の救済事業」(2/10、11人)

		第12回「建築家大高正人と横浜の都市デザイン」(3/17、15人)
開館祭の開催 H30.3.10(土)・11(日)	4,301人	ユーラシア文化館と共催。両日無料開館。 建物・展示見学ツアー、モンゴルの家「ゲル」公開、馬頭琴演奏会、民族衣装試着体験、なつかしの街頭紙芝居、「ゲル新聞」の製作(新聞博物館との連携)、大道芸、缶バッジ制作など 3月10日(土)は夜7時まで開館時間を延長した。 活動支援ボランティアによる支援(のべ17人)



開港記念日ワークショップ



なつかしの街頭紙芝居

(4) 地域・行政との連携事業

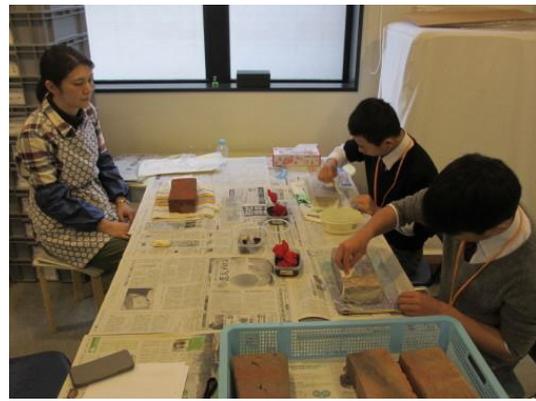
項目	事業内容
横浜セントラルタウン・フェスティバルY158への参加 5/27(土)、5/28(日)	中区の商業団体が開催する横浜セントラルタウン・フェスティバルY158に、山下公園通り会として開港資料館と共同で参加し、両日無料開館した。
京急グループ社史の監修協力	同グループの120年史の刊行にあたり、その監修に協力し、また図版を提供した(8月~3月)。
横浜市開港記念会館100周年事業への協力	中区役所が実施する横浜市開港記念会館100周年事業に協力し、記念誌『ジャックの塔 100年物語』の監修・執筆を開港資料館・市史資料室と共同で行った。
「第33回全国都市緑化よこはまフェア」関連事業への協力	横浜市環境創造局が実施する「第33回全国都市緑化よこはまフェア」の関連事業に協力し、1階ギャラリーにてパネル展「西洋公園の誕生」を開催した。
横浜市職員対象の講座・見学会の実施	企画展「みなとみらいの誕生」開催期間中に、横浜市職員を対象とした展示関連講座と見学会を開催した。参加者：60人 共催：横浜市教育委員会生涯学習文化財課
「広報よこはま なか区版」への執筆協力	中区に関する歴史資料を紹介する連載記事「歴史の散歩道」を、「広報よこはま なか区版」に開港資料館と共同で執筆した。

(5) 学校連携事業

項目	事業内容
市内小学校団体見学の受入	小学校4年生のカリキュラムで学習する吉田新田にあわせて、「吉田新田の開発とその後」(関外地区の発展)をテーマに、職員による解説とミニ体験のメニューを実施。108校、9,849人の小学校4年生の団体入館があった。(前年度122校、10,146人)
教員向け研修の実施	財団エデュケーターと内容を検討し、小学校4年生向けのメニュー「吉田新田の開発とその後」について、夏休みに小学校教員向けの研修を実施した(参加者30人)。
学芸員実習の受け入れ	4名の学生を受け入れた。実習生を主体としてミニ展示を企画してもらい、学芸員の仕事について総合的な理解を深めてもらうと同時に、当館の展示事業のひとつにつなげた。
中学生職場体験の受け入れ	3校計6名の中学生職場体験を受け入れ、ブログを使った広報、煉瓦の拓本採取などの作業等、体験を通じた学習を実施した。



市職員向け講座



職場体験

(6) 広報

項目	事業内容
印刷物作成	年2回の催し物案内、企画展関連広報印刷物、館報を中心に、適宜イベントチラシを作成・配布を行った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜都市発展記念館催し物案内(館案内リーフレット)</li> <li>・企画展ポスター・チラシ</li> <li>・館報『ハマ発Newsletter』第28、29号(各10,000部)</li> <li>・その他、月イチ講座、夏祭り、開館祭チラシなど</li> </ul>
優待カードの発行	年間パス「EAハマ発カード」の販売を継続した。 年会費 1,500円
その他広報	横浜市を通じての記者発表 横浜市文化観光局の媒体を通じての広報活動 市内学校・公共施設へのチラシ配布 日本大通り駅改札外・市営地下鉄関内駅改札外掲示板へのポスタ

	<p>一掲出</p> <p>ホームページ・ブログによるインターネットでの情報配信</p> <p>テレビ・ラジオ・ケーブルテレビ・インターネット等放送媒体への情報提供、取材受入</p> <p>新聞各社・雑誌・タウン情報誌・旅行情報誌・その他広報誌等への情報提供、取材受入</p> <p>市内観光案内所へのチラシ訪問配布</p> <p>市外都市旅行代理店への施設説明</p> <p>フィルムコミッションへの協力による撮影場所としてのPR</p>
--	--

## 5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、歴史資料及び展示等に関する情報を提供するために、データの入力等を行い、文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項目	事業内容
ホームページ運営	<p>新着情報の発信</p> <p>企画展示案内の更新</p> <p>館報『ハマ発Newsletter』の全文掲載</p> <p>ミュージアムショップの案内（刊行物・グッズ）</p> <p>「横浜絵葉書データベース」等収蔵資料の画像公開</p>
メールニュース配信	<p>企画展の情報を中心に、関連イベントや月イチ講座、ショップの新商品などの内容を盛り込んだメールニュースを定期的に配信した。</p> <p>配信数 55号～56号+号外1回 計3回</p>
ブログでの情報発信	<p>催し物案内や、企画展の見どころ、日常業務などを、各担当者が写真付きでタイムリーにブログで発信した。</p> <p>記事総数 18件（29件）</p>
インターネットによる新着情報発信	<p>ホームページ上で、財団各施設案内をはじめ、展示・催し物・刊行物等の紹介を行った。</p> <p>アクセス件数 60,816件</p>

## 6 都市発展記念館施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

都市発展記念館の維持管理及び運営を行いました。

管理対象施設	事業内容・所在地など
都市発展記念館	<p>施設の維持管理</p> <p>・主な修繕：監視モニター、1F身障者用トイレの修繕など。</p>

## 7 都市発展記念館・ユーラシア文化館収益事業（定款第4条第1項第2号）

### （1）ミュージアムショップの経営

① オリジナル商品として、各企画展図録や刊行物のほか、複製地図・絵葉書・DVD・クリアファイルなどを販売した。展示に合わせ新しい鳥瞰図と絵葉書を作製し、新たに市電の方向幕と系統版をデザインしたマスキングテープの販売を開始した。

② 委託商品の販売

各企画展に合わせ、一押し商品を目立つところに配置。同じジャンルの書籍を委託・オリジナル関係なく、興味関心のある人がまとめて買いたくなるよう陳列にも工夫した。

(2) 自動販売機（1台）の設置

<各事業の推移>

(千円)

項 目	平成29年度	平成28年度	平成27年度
ミュージアムショップ売上	6,390	5,514	5,276
自動販売機手数料収入	85	89	84

**事業別評価**

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	寄贈を中心に、800点以上の資料を収集した。総所蔵資料点数は38,795点で、収集資料の充実をはかることができた。	A
調査研究事業	開港・市史と3館による定期的な研究会を充実させ、中心的な役割を担った。その研究成果は企画展等において高い評価を受けている。	S
常設展事業	来館者数は年間目標48,000人の73%にとどまったが、 <b>新規寄贈</b> 資料や企画展の関連資料をコーナー展示で紹介するなど、集客につとめた。	C
企画普及事業	2回の企画展示はどちらも好評であり、総入館者数は1万5千人を超え、目標を達成した。また、展示関連事業も好評であった。	A
情報事業	HP、メールニュース、ブログ、インターネットなどを活用して施設案内、展示や催し物案内についての情報を発信した。インターネットによる新着情報発信のアクセス数は6万件を超えた。	B
施設維持事業	施設の老朽化による影響が出始めているが、通常の施設維持事業は順調である。	B
収益事業	ミュージアムショップの売り上げは順調で、企画展示にあわせた新たな商品の開発などをおこなった結果、28年度の売上と比べて、約90万円の増加であった。	A

## 5 ユーラシア文化館事業

本年度は、国際都市横浜の博物館として、市民の異文化理解を一層進めていくため、大学をはじめ、他の研究機関や博物館、諸施設と連携した展覧会やイベントを積極的に実施すると共に、学校教育との連携にも積極的に取り組みました。

展覧会では、**大学や他の博物館と連携・協力した、企画展「タイ・山の民を訪ねて1969～1974」と「魅惑のランプー古代地中海からヨーロッパ、アジア・日本まで一」**を開催し、図録を刊行しました。また、**11回の夜間開館延長を実施しました。**

常設展示では、一部を企画展に合わせて展示替えし、資料の初公開や小学校3年生の単元に沿った横浜の資料を展示するなどして、収蔵資料の公開と学校教育への協力を行いました。**またグローバル人材育成への協力も行いました。**

調査研究では、収蔵資料の基礎的研究や展覧会へ向けての調査研究とともに、歴史博物館や館外の研究者と協力してユーラシア概念の一般化を目指す研究も継続して進めました。学校との連携では定着した小学4年生の学校団体見学利用に加え、**当館独自の取組として、小学2年生の国語学習（「スーホの白い馬」）と関連付けて、ゲルを活用した学校団体の見学及び馬頭琴・民族衣装の体験を積極的に進めました。**

普及啓発事業では、1階のフリースペース（ギャラリー、旧第一玄関）や中庭を活用し、各種パネル展、企画展に関連した写真展やワークショップ、ユーラシア文化館・都市発展記念館専門職員の連続講座（月イチ講座）など多様な催しを実施しました。さらに、6月2日の開港記念日、夏期の夏まつり、3月の開館祭を無料開館とし、市民の方が当館を身近に感じていただけるような様々なイベントを展開し、多くの方々の来館を得ました。イベントには、市民ボランティアの他、高校の授業と連携して高校生のボランティアを受け入れました。**国際フェスタへの参加や、グローバル人材育成への協力の一環としての高校の授業への出講など、館の外での活動にも取り組みました。**

### 1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

ユーラシアの考古・美術・民族・歴史資料および文献等を分類・整理するとともに、良好な状態で保管するため、収蔵庫や展示室を常に適切な状態に保つよう環境検査を行いました。

#### （1）資料収集・保存

項目	点数	事業内容
資料の寄贈・寄託	寄贈70点 寄託7点	主な収集資料：慶陵契丹文字拓本
資料の購入	0点	
資料熟覧	7件	羊頭付移動式竈1点（島根県埋蔵文化財センター研究院による比較研究）、イスラーム陶器・絵画等（ウズベキスタン文化遺産出版プロジェクトのための事前調査）ほか
文献資料熟覧	0件	

資料の貸出	2件	小学校および自治体への学習教材（民族衣装、馬頭琴など）の貸出し。
収蔵資料の画像利用	3件	粘土板文書（『ヨーロッパ文明の起源』筑摩書房）、青銅製刻線文水桶、ディナール金貨（朝日新聞コラム「目利きのイチオシコレクション」）ほか

(2) 文献資料の整理

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
和図書	書誌データの入力を行った。入力確認件数 112 件
中国語図書	書誌データの入力を行った。入力件数 1041 件
洋雑誌	未着手。
和雑誌	書誌データの入力を行った。入力件数 336 件 目次入力を行った。入力件数 336 件

(3) 資料収集実績

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
考古・美術・民族 ・歴史資料	0 (-)	0 (-)	70 (165)	7 (-)	77 (165)	8,667 (8,590)
図書	1 (5)	0 (-)	351 (563)	0 (-)	352 (568)	21,492 (21,140)
雑誌	0 (0)	0 (0)	76 (57)	0 (-)	76 (57)	8,264 (8,188)
電子資料	0 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	2 (0)	19 (17)
合 計	1 (5)	0 (0)	499 (785)	7 (-)	507 (790)	38,442 (37,935)
累計	898	2	37,362	180	38,442	

※（ ）内は、前年度点数。

(4) 資料の保管

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
保存燻蒸処理	「ふくろう君」（文化財用炭酸ガス）による資料の燻蒸に加え、外部燻蒸庫を借用して酸化プロピレンを使用した殺虫殺菌燻蒸を実施した。
環境検査	虫菌による被害を未然に防ぎ、大気・塵埃・光線等の影響を最小限に抑えるため、年6回の環境検査を実施した。

(5) 資料保管施設

保管施設	保 管 資 料
都市発展記念館・ユーラシア文化館収蔵庫（200 m <sup>2</sup> ）	考古・美術・民族・歴史・文献資料を収蔵。
外部倉庫（大黒ふ頭）	図書（江上文庫の重複本など）、販売用出版物などを収蔵

## 2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号）

収集資料の整理、企画展や講演会の基礎的資料収集・調査研究を行い、十分な成果を上げてきています。また、ユーラシア概念に関する歴史博物館との共同研究については、29年度も継続して実施しました。

### （1）基礎的調査研究

項目	目的・意図 及び 内容・成果
収蔵資料と関連資料の研究（2／5年）	海外の発掘調査に参加し、イスラーム時代のガラス資料を実見し情報を収集した。円筒印章の整理は未着手である。
横浜市内にあるユーラシア関連資料の調査・研究（2／5年）	市民から新たな寄贈・寄託の申し出がありその整理を優先したため、これまでにデジタル化した画像のデジタルアーカイヴズへの公開には至らなかった。市民から寄贈を受けた中国古鏡関連資料に基づいて構築・公開した銘文データベースを更新したほか、旧蔵者の古鏡銘文に関する研究成果を紀要で公開した。
遊牧世界の物質文化の研究（2／5年）	外部研究会に参加して知識を深め、月イチ講座や企画展関連講座の内容に反映させた。市民参加によるゲルの組み立て解体を解説付で2回実施した。紀要第6号に当館収蔵の馬具を紹介し、また同分野の研究者の論文を掲載した。
ユーラシア概念をめぐる研究（2／5年）	歴史博物館と連携し、共同研究会を実施。 <b>歴史博物館学芸員および外部研究者の協力を得て、日本や東アジアを含むユーラシア諸地域の文化交流についての最新調査研究成果を共有した。各研究報告については、当館紀要にて要旨を公開している。歴史博物館との連携事業。</b>
バリの民族衣装に関する研究（2／2年）	参考文献の収集、館外の民族衣装コレクション展示の実見を通して、バリ民族衣装の知識を深めたほか、現地での機織り等の調査も行った。
お茶の展開ルートに関する研究（2／3年）	<b>館蔵関連資料の確認をするにとどまった。関連資料寄贈のお申し出を受け調査した。</b>
「唐物」と東部ユーラシアに関する研究（2／3年）	「唐物」に関する古代の基礎史料の把握と収集に努めた。上記「ユーラシア概念をめぐる研究」の1回を「唐物」をテーマに開催した。報告は平成30年度の紀要（第7号）に掲載予定。
平成29年度以降開催予定の企画展調査	<b>29年度以降の企画展に関し、基礎的な調査や資料所蔵先との交渉などを行った。</b>

### （2）研究紀要の発行

『横浜ユーラシア文化館紀要』第6号（A4判、186頁、500部）を発行。

## 3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

常設展示室において、企画展と連動した展示替えを行いました。また、展示資料に関連するクイズを配布するなど、集客とサービスの向上を図りました。展示ケース照明の修繕を行うとともに展示室全体の照明の見直しを行い、見易く雰囲気の良い展示室への改善に努めました。

(1) 常設展示室での実施事業

項目	事業内容
展示更新	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展やイベントに合わせて、入口ケース、「装う」、「伝える」の展示替えを行った。</li> <li>・企画展やイベントにあわせて、ライブラリーに関連図書を配架した。</li> </ul>

(2) 常設展示観覧者の推移 (目標数 40,000 人)

	有料入館者 (人)			無料入館者 (人)	合計 (人)	前年比	開館日数	1日平均入館者(人)
	大人	小中	計					
29年度	985	589	1,574	33,730	35,304	93.0%	305日	115.8
28年度	855	569	1,424	36,534	37,958	113.8%	306日	124.0
27年度	956	371	1,327	31,999	33,326	79.7%	305日	109.2

4 企画普及事業 (定款第4条第1項第1号②)

都市発展記念館と二施設一体となって市内学校団体受入や、市民ボランティアの活用によるワークショップの充実、各種イベントを実施しました。

また、より多くの方に当館へ足を運んでいただけるよう、年間11回の午後7時までの延長開館日を設けました。

(1) 企画展の実施

企画展名/開催期間	観覧料	入館者数	目的・意図 及び 内容・成果
企画展「増田彰久写真展 アジアの近代建築 遺産—上海・青島・ 北京・大連・長春— H29.4.1(土)～4.9(金) 会期9日間(うち開館日 数8日) *全会期 H29.1.28(土)～4.9(日) 会期73日間(うち開館日 数63日)	一般 300円 小中 150円	648人 1日あたり 81人 ※会期中 の総入館 者数 9,266人 (目標数 7,700人) 1日あたり 106人	写真家増田彰久氏が30年にわたり撮影した、中国の上海・青島・北京・大連・長春などに残される近代建築の写真70点を展観。様々な建築に日本をはじめ、諸外国とのつながりを見て取ってもらうことを意図した。企画展示室に写真作品だけを展示したのは初めての試みであった。 <b>(都市発展記念館と共催)</b> <b>【関連事業】</b> ① 写真展「横浜山手1985」(開催期間1/31～4/9)。会場：1階ギャラリー・第一玄関。 ② ワークショップ(ボランティア) a. 紙でできたカメラを、のぞいてみよう!作ってみよう! b. 飛び出す近代建築!(ペーパークラフト作り) 4月中4回実施、参加者37人。 ③ 講演会「中国の近代建築遺産をめぐって」(4/8)。会場：情報文化センター情文ホール 参加者203名(有料参加者168人、参加費1000

			円)
<p>企画展 「タイ・山の民を訪ねて 1969～1974」 H29. 7. 15 (土) ～ 9. 24 (日) 会期 72 日間 (うち開館日 数 62 日)</p>	<p>一般 300円  小中 150円</p>	<p><b>4,394人</b> (目標数 7,500人)  1日あたり 71人</p>	<p>当館の展示資料の中でも特に人気の高いタイの山地民の民族資料の文化的背景とその収集経緯を広く知っていただくことを意図した。華やかな民族衣装のほか文字資料や神画、資料収集当時の映像などを展示、当館収蔵資料の初公開も行った。関連講座ではヤオ族文化研究所の協力により、来日中のヤオ族の祭司に舞いを披露していただいた。<b>(南山大学人類学博物館・ヤオ族文化研究所と連携)</b></p> <p>●展示図録『タイ・山の民を訪ねて 1969～1974』A4判、80頁、1000円(税抜き)の編集・出版。</p> <p><b>【関連事業】</b></p> <p>①関連展示</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヤオの神々 (神画のレプリカを展示) 会場：2階展示室一部</li> <li>・中国湖南省藍山県のヤオ族の儀礼 (写真・映像) 会場：1階ギャラリー</li> </ul> <p>②関連講座「ミエン／ヤオの生活文化を知る」(10/1) 会場：情報文化センター情文プラザ 参加者 70名 (有料参加者 64人、参加費 500円)</p> <p>③ギャラリートーク 会期中 4回実施 参加者数 計 75人</p> <p>④ワークショップ (ボランティア参加)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヤオの刺繍に挑戦！・ポンポン作り</li> <li>・ヤオの切り紙に挑戦！・神様ぬりえ</li> </ul> <p>会期中 23回実施、参加者 373人</p>
<p>企画展「魅惑のランプー 古代地中海からヨーロッパ、アジア・ 日本まで」 H29. 1. 20(土)～ 3. 31(土) 会期 71 日間 (うち開館日 数 61 日)  *全会期 H29. 1. 28(土)～4. 1(日) 会期 72 日間 (うち開館日</p>	<p>一般 300円  小中 150円</p>	<p><b>11,394人</b> (目標数 7,500人)  1日あたり 184人</p>	<p>世界有数の中山氏のランプコレクションから約230点を展示。横浜市指定文化財灯火具コレクションも合わせて展示して、古代から近代までのユーラシア各地のランプを概観した。世界各地で異なる装飾の面白さや日本のランプとの共通性や違いなどを理解して頂くことを意図とした。関連企画としてランプやあかりをテーマとして連続講座やランプの明るさ体験などを行った。</p> <p><b>(古代オリエント博物館と共同企画)</b></p> <p>●展示図録『魅惑のランプ』A4変形判、72頁、899円(税抜き)を古代オリエント博物館と共同出版。</p>

数 62 日)		<b>【関連事業】</b> ① 関連連続講座 (2/17、2/18、3/3、3/4) 参加者 68 人 ② 陶芸教室「作ってみよう！自分のランプ」 (2/12) 参加者 40 人 (参加費 1,000 円) ③ ギャラリートーク会期中 4 回実施 参加者数 計 68 人 ④ パルミラ遺跡地下墓の体験 参加者延 7,835 人 ⑤ ワークショップ (ボランティア参加) a. 火打石を使ってみよう！ b. ローランプ作りを体験！会期中計 21 回 実施、参加者 1359 人。
企画展基礎調査		来年度開催予定企画展の基礎調査を行った。



企画展関連講演会



企画展関連講座 ヤオ族の舞い



夜間開館 展示解説とランプ体験

(2) 企画展示室観覧者の推移 (目標数 15,000 人)

	有料入館者 (人)	無料入館者 (人)	合計 (人)	前年比	開館日数	1 日平均 入館者 (人)
29 年度	3,698	12,614	16,312	102.6%	124	132
28 年度	3,993	11,912	15,905	98.4%	122	130
27 年度	3,145	13,021	16,157	89.5%	135	119

(3) 講座・講演会

項 目	参加者数	内 容
<b>月イチ講座の開催</b>	92人	1 階ギャラリーを活用し、気軽に参加できる講座を月に一回 開催した。都市発展記念館と連携。 第 1 回 「遊牧民の遺跡 (3) 鹿石」 (4/15 9 人) 第 2 回 「遊牧民の遺跡 (4) 凍結古墳」 (5/20 16 人) 第 3 回 「ウズベキスタンの博物館を巡る」 (6/24 13 人) 第 4 回 「マルコ・ポーロと『東方見聞録』2」 (10/28 16 人) 第5回 「遊牧民の遺跡(5)匈奴の遺跡」 (11/18 20人)

		第6回 「東部ユーラシア世界と古代日本」 (12/16 18人)
特別講演会の開催 H29. 9 . 3	93人	来日中のロッコ・ランテ博士 (ルーヴル美術館イスラーム美術部門研究員) をお招きし特別講演会「Settlement Dynamics in the Bukhara Oasis and its Implication on Silk Road (ウズベキスタン ブハラ・オアシスの発掘調査とシルクロード)」を実施した。(横浜市歴史博物館と連携) 会場: 横浜市開港記念開館第1会議室

(4) 普及啓発

項 目	参加者数	事 業 内 容
「中区えほんフェスティバル」への参加 H. 29. 10. 1～11. 30	6,476人	モンゴル民話「スーホの白い馬」に登場するモンゴルの移動式住居ゲルを中庭に展示し、常設展示室ライブラリーにモンゴル関連の図書コーナーを作った。
「ゲルに集まれ！」 第1回 H29. 10. 1 (日)～10. 9 (月・祝) うち開館日数8日 第2回 H30. 2. 24 (土)～3. 11 (日) うち開館日数14日	ゲル入口カウンター数値 第1回 7,552 第2回 20,483	市民、ボランティアと共に中庭にゲルを組立、展示、解体を行うと共に、馬頭琴の展示やモンゴル衣装の試着等を行った。 第1回・衣装試着(4日間) 730人・展示解説(3回) 116人・演奏会(10/9) 290人・演奏体験(10/9) 95人 第2回・衣装試着(6日間) 1,345人・展示解説(3回) 206人・演奏会(2回) 865人・演奏体験(2回) 290人
夏まつり H29. 8. 11 (金・祝)	1,152人	都市発展記念館と連携し、全館無料の「夏まつり」を開催。市民ボランティアの協力を得てイベント・ワークショップを実施した。当日は19時まで開館時間を延長した。 ・民族衣装を着てみよう! [情文プラザ] ・牛乳パックで作ろうスクリー船 [1階図書コーナー] ・記念缶バッジ作り [1階図書コーナー] ・街頭紙芝居 [旧第1玄関] ・大道芸 [エントランス] ・企画展示解説・建物トワイライトツアー
「子どもアドベンチャー2017」の開催 H29. 8. 18 (金)	12人	市内小中学生を対象に一日職業体験を実施した。展示解説体験や出土煉瓦の水洗い、受付体験、バックヤードツアーなどを実施した。(都市発展記念館と連携)
よこはま国際フェスタ2017 H29. 10. 7 (土)	133人	よこはま国際フェスタ2017に参加し、オリジナル缶バッジ作り、シャガイ占い、物品販売を実施。博物館実習生の協力を得た。

<p>開館祭 H30. 3. 10(土)・11 (日)</p>	<p>4,301人</p>	<p>都市発展記念館と連携し、全館無料の「開館祭」を開催。市民ボランティア・市民グループの協力を得てイベント・ワークショップを実施。10日は19時まで開館時間を延長。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展関連ワークショップ</li> <li>・モンゴルの家「ゲル」の公開・解体〔中庭〕</li> <li>・スーホーの服を着てみよう！〔情文プラザ〕</li> <li>・ゲル新聞をつくろう！協力：日本新聞博物館</li> <li>・モンゴルの童話 おはなし会〔情文プラザ〕 読み手：ことりの会、中図書館ボランティアグループ・モックの会 協力：中図書館</li> <li>・馬頭琴 きける！ひける！演奏会〔情文プラザ〕 演奏：宮原洋子 協力：天馬の会</li> <li>・なつかしの街頭紙芝居〔図書コーナ〕</li> <li>・都ユまんぷくツアー（施設・常設展示案内）</li> <li>・大道芸〔中庭〕</li> </ul>
-------------------------------------	---------------	--



特別講演会



子どもアドベンチャー



開館祭 まんぷくツアー

(5) 学校連携事業

項目	事業内容
<p>市内学校団体見学の受入</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語学習（「スーホの白い馬」）に関連して、小学校教2年生全員にチラシを配付し、日時を決めてゲルの解説、馬頭琴・民族衣装の体験を実施したほか、学校単位の解説申込にも対応した。1校146人。</li> <li>・小学校校向けに教材の貸出を行った。1校。</li> <li>・小学校4年生のカリキュラムで学習する吉田新田にあわせて、「吉田新田の開発とその後」（関外地区の発展）をテーマに、都市発展記念館と連携し、職員による解説と体験メニューを実施した。204校11,328人（うち、小学校4年生108校 9,849人）</li> </ul>
<p>教員向け研修の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財団エドゥケーターと連携し、吉田新田の学習をはじめとする教員向け研修を実施した。</li> </ul>
<p>学芸員実習の受け入れ</p>	<p>11名の学生を受け入れた。企画展準備や実習により、学芸員の仕事について総合的な理解を深めると同時に、当館イベントスタッフとして活躍した。</p>

職業体験の受け入れ	小中学生の1日職業体験（子どもアドベンチャー・前述）及び中学生を対象とした職業体験の受け入れを行った。中学生については合計で3校6名を受け入れた。
グローバル人材育成への協力	横浜市教育委員会の海外大学進学プログラムの一環として、「世界につながるまち横浜を学ぼう」の講義（和英）を当館常設展示室で実施した。 参加者 20 名（南高校、サイエンスフロンティア高校） ・高校の国際学科総合学習（グローバルラーニング）への協力の一環として、ゲル組立て・解体作業に高校生ボランティアを受け入れ（3日間、のべ9名）、授業へ出講した。



小学校2年生団体への解説



学芸員実習生によるイベント補佐



高校生ボランティアによる学習  
イベント補佐

(6) 市民協働事業

項 目	事 業 内 容
市民ボランティアによるワークショップの実施	<p><b>歴史博物館活動支援ボランティアによる当館でのワークショップなどを実施した。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップのべ活動人数 計 218 人</li> <li>・ゲル建てのべ活動人数 計 49 人</li> <li>・夏祭りイベントのべ活動人数 計 28 人</li> <li>・開館祭のべ活動人数 計 30 人</li> </ul>

(7) 広報

項 目	事 業 内 容
印刷物作成	<p>都市発展記念館・ユーラシア文化館個々で作成していた館紹介リーフレットと半期ごとの催し物案内を、大きく見やすいものに統合して刊行。企画展チラシだけでは発信しきれないイベント情報に関しては別刷りの自主製作チラシで作成し、配布先の見直しを図りながら、定期的に配布した。館報については、継続して配布した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜ユーラシア文化館催し物案内（館案内リーフレット）</li> <li>・企画展ポスター・チラシ</li> <li>・館報『横浜ユーラシア文化館ニュース<i>News From EurAsia</i>』第27・28号（各10,000部）</li> </ul>

	・「ゲルに集まれ」チラシ
優待カードの発行	年間パス「EAハマ発カード」の販売を継続した。 年会費 1,500円
その他広報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜市を通じた記者発表。</li> <li>・市内学校・公共施設へのチラシ配布。</li> <li>・日本大通り駅改札外・市営地下鉄関内駅改札外掲示板へのポスター掲出。</li> <li>・ホームページ・ブログによるインターネットでの情報配信。</li> <li>・テレビ・ラジオ・ケーブルテレビ・インターネット等放送媒体への情報提供、取材受入。</li> <li>・新聞各社・雑誌・タウン情報誌・旅行情報誌・その他広報誌等への情報提供、取材受入。</li> <li>・市内観光案内所へのチラシ訪問配布。</li> <li>・市外都市旅行代理店への施設説明。</li> <li>・フィルムコミッションへの協力による撮影場所としてのPR。</li> <li>・近隣へのダイレクトメール発送。</li> </ul>

## 5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、調査研究・展示・出版・講演会・ミュージアムショップなどに関する情報を提供するために、データの更新等を行い、情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項 目	事 業 内 容
簡易検索端末・文献検索端末	資料：常設展示室における主な展示資料を検索できる端末の設置を継続した。 文献：館蔵文献のOPAC公開を継続・拡充した。
メールニュースの配信	希望者に対するメールニュースの配信を行った。
インターネットによる情報公開	財団開設のホームページ上で、財団各施設案内をはじめ、展示・催し物・刊行物の広報や、収蔵資料・図書文献資料等の紹介を行った。 アクセス件数 合計109,263件（前年度の127%）

## 6 ユーラシア文化館施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

ユーラシア文化館の維持管理及び運営を行いました。

管理対象施設	事業内容・所在地など
ユーラシア文化館	施設の維持管理 ・主な修繕：横浜市による中長期寿命化修繕計画による外壁及びエレベーター塔工事を実施。

## 7 都市発展記念館・ユーラシア文化館収益事業（定款第4条第1項第2号）

### （1）ミュージアムショップの経営

① オリジナル商品として、各企画展図録や刊行物のほか、絵葉書・メモ帳・クリアファイルなどを販売した。

### ② 委託商品の販売

各企画展や各種のイベントに合わせ、一押しの商品を目立つところに配置した。同じジャンルの書籍を委託・オリジナル関係なく、興味関心のある人がまとめて買いたくなるよう陳列にも工夫した。

マニラ展ではフェアトレード商品も取り扱い、今までとは違う商品展開と社会貢献にも寄与することができた。

### （2）自動販売機（1台）の設置

<各事業の推移>

(千円)

項目	平成29年度	平成28年度	平成27年度
ミュージアムショップ売上	6,390	5,514	5,276
自動販売機手数料収入	85	89	84

### 事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	資料収集及び整理は地道ながら着実に進捗した。資料の熟覧や他館への貸出など、外部利用者へのサービスも適宜対応した。	B
調査研究事業	計画していた調査研究については、概ね予定どおり進捗することができた。歴史博物館と共同研究を実施する中で、外部研究者と、新たな調査研究の成果を共有した。	B
常設展事業	来館者数は年間目標 88%にとどまったが、常設展については、部分的な展示替えのほか、企画展に合わせ展示内容を連動させるなど集客を図った。	B
企画普及事業	財団内外と連携して2回の展覧会を開催し、好評を得るなどして、企画展観覧者目標の109%を達成した。また今年度も、都市発展記念館と一体となって、市内学校団体受入や、市民ボランティアの活用によるワークショップの充実、各種イベントの実施など、多様な催しを実施した。 <b>学校連</b>	A

	<b>携では、ゲルを利用した教員向け解説などを新規に始めた。</b>	
情報事業	定期的なメールニュースの発行、HPを利用した情報発信に加えて、イベントごとに追加でチラシを作成・配布するなど広報強化に努めた。	B
施設維持事業	施設設備については、経年劣化した設備の修繕・交換と日常の維持管理を行った。展示ケース内のランプをLEDに交換し、光熱費の削減につながった。また、消防設備等の経年劣化も監視を続けながら、長寿命化を図っている。	B
収益事業	<b>オリジナル新商品の開発</b> や、企画展の開催に合わせ、関連書籍やグッズの販売などを積極的に行い、配置や陳列方法にも工夫をこらした結果、 <b>ミュージアムショップの売り上げは、28年度の売上と比べて約90万円増加した。</b>	A

## VIII 三殿台考古館事業

国指定史跡である三殿台遺跡への理解を一層深めるとともに、施設の特徴を發揮し、地域や市民により親しまれる施設を目指し、各種事業に取り組みました。

資料収集保管事業では、整理ボランティアによる出土品基礎整理を継続しました。発掘調査から半世紀以上が経ち、劣化の著しい写真等の記録資料をデジタル化することで資料の保全に努めました。調査・研究事業としては、**開館50周年記念企画展に向けた出土品再整理作業を行ない、三殿台遺跡の再評価を行うとともに、関連事業としてガラス小玉づくりを開催しました。**

常設展事業では、職員による学校団体などへの展示室の解説を行うとともに、住居跡保護棟の維持管理を適切に行いました。

企画普及事業として、リーフレットを配布するとともに、火起こし・勾玉作り・土偶作り・土器作り・石器作り・拓本とり体験教室、古代人体験教室、キャンプ in 三殿台など、**さまざまな体験教室を館内で開催するほか、学校や地域へ職員を派遣し連携を図りました。**これらのイベント等の開催は、ホームページや広報紙等活用し、周知に努めました。

市民協働事業として、市民ボランティアによる収蔵資料の再整理を行うとともに、ボランティアによる土曜・日曜日の常設展示・遺跡ガイドを継続実施しました。刊行物・缶バッジ・土器片ペンダント・オリジナルクリアファイルを販売し、収益増加を図りました。

施設の管理運営面では、事務棟・展示棟・住居跡保護棟・復元住居・擬木標示遺構の維持管理を適切に実施しました。成長した樹木の伐採や老朽化の進んだ復元住居内への立入り制限など、安全性の確保に努めました。

利用者促進事業の一環として、「ダイヤモンド富士観察会」・「弓矢撃ち体験」（無料）を実施しま

した。

総来館者数は 15,252 人で、前年度比約 94%と若干減少しましたが、**1 日当りの入館者は+6.8% でした。**今後もさまざまな工夫をし、市民サービスの向上、他施設・近隣学校などとの連携や市民協働による普及活動を継続していきます。

## 1 資料収集保管事業・調査研究事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号①）

保管資料について整理・分類・デジタルデータ化等を行い、資料の保全を図りました。

### （1）保管資料再整備事業

項 目	事 業 内 容
出土品保管再整備事業	横浜市歴史博物館で開催する企画展に向けて、弥生時代中期後葉を中心に再整理作業を行った。作業には整理ボランティアの協力を得た。
記録資料のデジタルデータ化事業	三殿台考古館保管の測量図面・写真類のデジタルデータ化を継続。遺構が不特定の写真について、特定作業を進めた。
図書資料の受入れと整理	寄贈された図書を整理分類し、103 冊の受入れを行った。

### （2）調査研究事業

項 目	事 業 内 容
三殿台遺跡の再評価	出土品の整理作業（分類・接合・復元・実測）を行った。この事業は市民ボランティア育成事業と関連付けて行い、横浜市歴史博物館で開催した <b>大塚歳勝土遺跡公園開園 20 年 三殿台考古館開館 50 年 企画『「横浜に稲作がやってきた!？」</b> 展にて、その成果を公表した。
古代技術の復元的研究	<b>ガラス小玉の鋳型法による製作実験を行った。</b> この実験の成果をもとに、記念展示の関連事業としてガラス小玉づくり教室を実施した。
三殿台考古館収蔵資料の活用	三殿台遺跡発掘調査の映像資料（DVD）を小学校団体見学の事前学習用に貸出した。また、小学 6 年生の学校見学の際、土器片や石器などの収蔵物を手にとって観察できるようにし、小学生の歴史教育に活用した。



ボランティアによる整理作業



ガラス小玉作り

## 2 常設展事業（定款第4条第1項第1号②） 29年度観覧実績 15,252人（目標数 16,200人）

遺跡・常設展示室・竪穴住居跡保護棟・復元住居・北側貝塚の維持管理を行うとともに、団体および一般来館者見学時に、遺跡や展示品について解説を行いました。

### （1）常設展示の維持管理と展示内容の充実

項目	事業内容
遺跡案内・展示解説の実施	団体および一般来館者見学時に、職員による遺跡・住居跡保護棟・復元住居・展示室・北側貝塚について、243人に遺跡案内・展示解説を行った。
常設展示の維持・管理、展示更新の実施	<b>三殿台考古館開館50周年記念ミニ展示『描いてみよう！弥生土器の文様展』を開催した（9/16～11/12）。</b>

### （2）住居跡保護棟の適切な保全

項目	事業内容
住居跡保護棟のメンテナンス等	竪穴住居跡保護棟のメンテナンスを委託し、適切に実施した（9回）。また、住居跡保護棟の窓ガラス8枚に低反射フィルム貼付工を実施し、反射による内部の観察障害を軽減した（7年間の実績：56/72枚）。

## 3 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

市民や来館者に遺跡への理解を深めてもらえるように、解説や体験学習を実施し、生涯学習活動を支援しました。また、施設の有効利用と認知度・顧客満足度を高めるための事業を実施しました。

### （1）企画普及事業

項目	参加人数	事業内容
「いそっぴゴールデンウィークスタンプラリー」への参加	99人	4月22日から5月7日の期間で、「いそっぴゴールデンウィーク2017スタンプラリー」に参加した。景品交換者は7人。 スタンプラリーに合わせてゴールデンウィーク体験教室を開催した。参加者76人
「子どもアドベンチャー2017」への参加	38人	「子どもアドベンチャー2017」に参加し、火起こし体験教室を開催した（8月18日）。 参加者38人（付添保護者36人）
三殿台遺跡整理ボランティア	<b>710人</b>	三殿台遺跡の再評価を目標にして活動している。今年度は、企画展に合わせ弥生時代中期の遺構を中心に、土器片の分類・接合・復元・実測および石器の実測作業を行った。 記録資料整理については写真資料整理・デジタル化作業を行った。
三殿台遺跡ガイドボランティア	59人	土日を中心に3～4人のボランティアが交代で来館者へ遺跡解説を行った。 <b>延べ59人が活動し834人をガイドした。</b>

学校見学の受け入れ	2,823 人	年間を通じて、小・中・高・大学の受け入れを行い、42 団体が見学した。引率者と事前に相談し、火起こしなど体験学習メニューを積極的に取り入れた。
博物館実習生・職業体験の受け入れ	9 人	7～8月、博物館実習生2人を受け入れた。 職業体験として汐見台中学校・岡村中学校2年生各2人を受け入れた。 汐見台中学校の1年生3人が職業インタビューに訪れた。
クラブ活動・総合的な学習・サマースクール等への支援		・市立岡村小学校の地域交流クラブに講師を派遣した。火起こし・勾玉作り・弓矢づくりなど 各回 23人参加（全7回） ・市立上大岡小学校のサマースクールに勾玉作り教室の講師を派遣した。 32人参加 ・飯島小学校勾玉づくり教室へ講師を派遣した。 11人参加 ・市立岡村小学校6年生土器作りの指導に講師を派遣した。 71人参加
ホームページの運営		月一回程度ホームページを更新した。「年間催し案内」を常時掲載し、体験学習等イベントの情報を発信した。
その他広報		（ア）広報よこはま磯子区版・南区版に体験学習の情報を載せた。 （イ）プラネット神奈川や横浜カレンダーに情報を提供した。 <b>（ウ）周辺区の小中学校校長会で三殿台遺跡を紹介し、活用してもらうよう案内した。</b>

## （2）体験学習事業

項 目	参加人数	事 業 内 容
体験学習の実施	514 人	（ア）ゴールデンウィーク体験教室 5月3～5日 3日：火起こし教室 25人 4日：勾玉作り教室 31人 5日：石器作り教室 20人 （イ）キャンプ in 三殿台 7月22・23日：4家族 2日でのべ19人 （ウ）夏休み体験教室 ①勾玉作り教室 7月29・30日・8月16日：63人 ②土偶作り教室

		7月16日：14人 ③土器作り教室 7月17日：10人 ※野焼き 8月26日 45人（保護者込み） ④石器作り教室 8月20日：21人 (エ) 秋の土器作り教室 9月24・30日・10月1・22日 各回7人 (オ) 随時実施の火起こし・勾玉作り ①火起こし：222人 ②勾玉作り：16人
--	--	---



土器作り



野焼き

(3) その他利用促進事業

項目	参加人数	事業内容
古代人体験教室	2,323人	弓矢撃ち体験の実施。無料。

(4) グッズ製作・販売事業

項目	事業内容
缶バッジの製作・販売	記念品缶バッジの製作・販売 販売価格1個 100円 29年度売上げ 259個 25,900円
土器片ペンダントの製作・販売	土器片ペンダントの販売 販売価格1個 700円・500円 29年度売上 @700×16個+@500×15個 18,700円
オリジナルクリアファイルの販売	記念品オリジナルクリアファイルの販売 販売価格1枚 200円 29年度売上 114枚 22,800円

4 三殿台考古館施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

三殿台考古館の諸施設を日々管理し、適切に維持するとともに来館者に満足感を与えるよう運営しました。

(1) 三殿台考古館の管理

管理対象施設等	事業内容・所在地など
経常的な維持・管理	事務棟管理 所在地：磯子区岡村四丁目 11-22 国指定史跡「三殿台遺跡」の管理 展示棟・竪穴住居保護棟・復元住居・遺構表示用擬木の維持管理。 遺跡内草刈り、植栽剪定 職員の定期的な施設内巡回などの危機管理対策を実施した。
老朽化した復元住居の閉鎖等	倒壊した案内板を新規に設置した。老朽化した縄文復元住居について安全確保のため、内部の見学を停止した。
開館時間の拡大	平成 29 年度も午前 9 時から開館し、4 月～9 月は午後 5 時まで、10 月～3 月は午後 4 時まで開館した。 「キャンプ in 三殿台」の開催時には夕～朝まで、閉館時間帯の施設利用を行なった。 年 2 回、開館時間を日没まで延長し、「ダイヤモンド富士観察会」を開催した。 ① 9 月 24 日～28 日 ② 3 月 10 日～14 日
休館日の変更	三殿台考古館の休館日について、① 1 日当たりの人員シフトを厚くして、来館者サービスの向上につとめる、② 来館者に危険が及ぶような施設修繕を休館日に行うことで来館者の安全を図る、などの目的で <b>今年度より毎週月曜日を休館日とし</b> 、HP や案内板などで周知を行っている。

(2) 三殿台考古館施設自動販売機売り上げの推移

項 目	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度
自動販売機売り上げ (円)	26,068	29,370	29,628

(3) 三殿台考古館施設入場者の推移

項 目	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度
三殿台考古館施設入場者 (人)	15,252	16,154	16,597

**事業別評価**

事業名称	実施概要	評価
資料収集・ 保管事業	資料収集保管事業では、整理ボランティアによる三殿台遺跡出土品基礎整理、収蔵記録資料のデジタルデータ化などを継続した。また、職員により三殿台遺跡調査時測量図面の整理を実施し、遺	B

	跡全体図の再作成を実施した。	
常設展事業	<p>常設展事業では、職員による学校団体・一般団体・その他来館者へ遺跡・住居跡保護棟・復元住居・北側貝塚について展示解説を実施した。</p> <p><b>来館者数は 15,252 人で、目標値の 94%となりましたが、月曜休館に伴う開館日数の減少（同 88.7%）に比べ、高い比率となっている。</b>また、学校団体の見学は昨年度より 2 校・500 人増加した。</p>	B
企画普及事業	<p>市民や来館者に遺跡への理解を深めてもらえるように、展示解説や体験学習を開催し、生涯学習活動を支援した。とくに、弓矢撃ち体験は好評で、<b>昨年度の 1.5 倍 2,323 人の利用実績</b>を上げた。</p> <p><b>資料整理ボランティアは延べ 710 人で前年度比 116%であった。企画展という目標に向けて高いモチベーションをもって参加していただいた。</b></p> <p>また遺跡ガイドボランティアは延べ 59 人が参加し、834 人をガイドした。</p>	S
施設維持事業	<p>事務棟・展示棟・住居跡保護棟・復元住居・擬木標示遺構の維持管理を適切に実施した。</p> <p><b>暴風により倒壊した案内板を新たに設置した。</b></p>	A